

昭和四十二年十二月招集(第三号)
第四回市議会定例会入会議録

館山市議会第四回定例会会議録(第二号)

昭和四十二年十二月招集

十二月二十日(水曜日)

一 議事日程(第二号)

第一通告質問

認定第一号

昭和四十二年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号

昭和四十二年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第三号

昭和四十二年度館山市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第四号

昭和四十二年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第五号

昭和四十二年度館山市休養施設特別会計歳入歳出決算の認定について

決算の認定について

認定第六号 昭和四十二年度館山市館山ユースホステル特別会計
歳入歳出決算の認定について

認定第七号 昭和四十二年度館山市上水道事業特別会計歳入歳
出決算の認定について

第三議案第壹号 館山市住民登録施行条例を廃止する条例の判
定について

第四議案第壹号 館山市非常勤消防団員に係る退職報償金の
支給に関する条例の一部を改正する条例の判定
について

第五議案第壹号 館山市民交通傷害保険条例の判定について
議案第壹号 昭和四十二年度館山市一般会計補正予算第三号

第六議案第壹号 昭和四十二年度館山市国民健康保険特別会計補正予算
第二号

議案第六十八号 昭和四十二年度館山市休養施設特別会計補正予算

第一号

議案第六十九号 昭和四十二年度館山市館山ユースホステル特別会計補

正予算第一号

第七請願書

午前十時十五分 開議

議長(吉田勇治郎君) 本日の出席議員数 二十七名

このうち第四回市議会定例会第二日会議を開会いたします。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行ないます。

日程第一通告による行政一般質問を行ないます。

通告の順序により一八番議員安西益男君御登

壇願います。

(一八番議員登壇)

一八番(安西益男君)質問に入る前にまず市当局より具体的かつ誠意ある回答を願います。三点にわたる願いをい。こりように思います。

まず第一点につきましては交通事故対策ということについてでございますが御承知のように昨今激増する交通事故に対する恐怖は今や全く交通戦争、或いはまた交通地獄と言わねるに至っておりますのでございます。

交通禍による被害はきわめて憂慮すべき事態にありまた四、六時中危険にさらされてゐる。その不安は増大する一方である。かような時点にきておりますのでございます。また各地方自治体におかれましては、こゝ解決策につきまして積極的に取り組む必要がある。また、そうせざるを

得ないという時点にきておるのでございます。また当市におきましても、この対策については施政方針等にも明らかに如く、今年度はこれが対策については大いに配慮していく。このように述べられておる中で、まことに強く感ずる次第であります。今日まで、交通対策について活動状況について具体的な説明をお願いしたい。このように存ずるわけでございます。なおまた次の三点についてぜひとも実施されるよう強く要望いたします。

三つのうち一点は、来る三月決算審査委員会におきまして、この実施方を要望しておりまゝのところ、今回この交通傷害共済制度、この点につきましても、本議会に上程する段階になっており、まことに喜ばしい。このように感ずる次第であります。なお二、三点について御質問申し上げたい。

それは当市におきましても、この制度は保険会社との契約に

なっておりますが、自治省等におきましては、~~井~~判度各
自治体に対しまして直営方式ということと非常に関
励してあるわけでございますが諸般の事情等から今回
場合は保険会社と契約になつておると思ひますが、ある時
点におきましては、これに切りかえができるかどうかといふこ
とでございます。また、小学生、或いは生活保護の扱ひ
等、二、三の点についてはどうするかという点について、今少
しく具体的な説明を願ひたい。このように思つておるう
でございます。

また二点といつたしましては、交通相談所の設置についてで
ございます。

この相談所の開設は、まず、毎月一回何週の何曜日と
いうふうに定めて、そうしてこのおもな業務といつたま
では、交通事故等により被害を受けたもの、また、そう

家族に対して賠償金額、算定方法示談の進め方等について的確な指導、助言等をおもな仕事とする。

このように思うのでございます。従つて交通相談員、または弁護士等を配置して被害者保護のために適切な処置と相談に応ずるようにすべきではないか。このように思つておりますが、当局のお考えはいかがでありますか。まずこの点について伺ひたい。このように思うのでございます。現在におきましては、果する毎月一回出張してそう任に當つておるといふ現状にはありますが、きわめて一部の人しか利用していない。大半はまだ知らないというのが、現段階についての実情だと思われるのであります。

何といつても市民と連結している市において、こういう施設を設置をしていかねければならない。このように強く要望していきなさい。という思ひますので、この点について答弁をいた

だいたい。

それから、その三点といつては、市民交通教室の開設でございます。

交通安全対策の一環といつて、市民に交通法規や交通道徳を学んでもらう交通教室を開設すべきではないか。このように思っておりますが、この点についてはいかがなものでありますでしょうか。これは市警察、安全協会が一体となり、そして市民を交通禍から守る。そのためには交通安全の知識の普及に努力すべきである。このように感ずるものであります。この点について伺います。

質問の第三点といつては、市営住宅、五カ年計画による百七十戸の年度別計画についてということでございます。

館山市長期計画にありますが、昭和五十年年度にましましては、人口七万人程度になる。このように想定してあるでございます。

これに対応する住宅計画を早急に立てなければならぬ。
このように述べられておる中でございますが、当面五カ年計画
によるところの見通しについて伺いたい。このように思おう
てございます。

それから第三点の質問といたしまして、と畜場や衛生管理
というところでございます。聞くところによりますと、と畜場
殺に際しましては汚水処理場を作る。このようない約束がな
されておった。このように聞いておりますが、その点については、
どんなものであるかというのをまず伺いたい。

そうしてまた長い期間にわたって、と殺の際に出るところの
血が汚水とともに付近の川に流れて付近の住民から非常
に非難の声を聞いておる。また市政に対する不信を
いदैておるといふように聞いておりますが、この件につきま
してと畜場法或いはと畜法にかなっておるかということでご

二 負 口 市 議 会
ございます。また環境衛生の面からいっても、この浄化施設を設置すべきである。このように思っておりますが、この点につきましては当局にお考えをお聞かせ願いたい。以上の点につきまして具体的な御回答を願いたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(市長登壇)

・市長(本間譲君) 一八番、安西議員の質問に対しまして、お答えいたします。

交通事故対策についてでございますが、館山市といしましては、現在青少年の健全育成、交通安全、この二つを大きな市政の考え方として、これに現在取り組んでおるわけでございます。中でも交通問題につきましては、一昨年だと思いまうたが、館山市は議会におきまして交通安全金都市宣言をいたしております。ことは皆さん

御承知のとおりでございますが、このうちのことから考えま
して積極的な対策を講じておるわけでございますが、まず
お尋ねの交通災害共済制度の実施についてでございます
すが、このにつきましては、一八番議員のお話もございま
す。このように、市が直接、直営でやるか、或いは、保険会社に
委託してやるかという二つを考へ方があるわけでございま
すが、いろいろこの点につきましては、先進地も視察しますし
いろいろ調査しますところ、この点を有効にするには、二万
人位の加盟者がなければ、この制度の十分な活用がで
きないというふうなこともわかつて参ったわけでございま
す。この際、保険会社と契約してやること、が、当市は、経済状
態からして、一番適当じゃないか、という結論になつたわけで
ございまして、このたびは、この議案に上程してござい
ますが、交通傷害制度を設けまして、保険会社と契約して
やる、という

ことでございます。

その中で普通う市民は三百六十円を掛けねばならぬとき
には五十万円入院したときには二十円から十万円までの
補償をする。こういうことになっておりますけれども、生活
保護法による保護を受けておるものと、或いは就学困
難な児童及び生徒にかかる市の負担というのを六十円
というところで進めないという御提案申し上げておるわけ
でございます。また保険会社から将来市直営に切り
かえるときには支障がないかというふうなお話でございますが
こゝにつきまゝでは保険会社とも十分話し合いをもちま
いて契約をいたして遺憾のないように進めたいと考えてお
る次第でございます。

それから交通相談所の設置についてでございますが、こゝに
つきまゝでは、市としましては、市民相談所におきまゝて

毎日、交通問題を食んだ、あらゆる相談を受け付けをしてやっておるわけでございますけれども、御承知のように本年四月から、果て交通相談所というものが発足いたしまして、市でもそれに費用を払っております。現在、そういう交通相談所にむづかしい問題については相談をして解決をするというところでやっておるわけでございますが、毎月一回参るわけでございますが、月平均七件でございます。十一月末では、五十八件でございます。そういう市の方々の相談が三十四件あったわけでございますが、また直接市で受けたものは九件ばかりあるわけでございます。

聞くところによりますと、果ても来年四月からは交通相談所を強化して市民、県民の便宜をいっそうはかる、こういうことでございますから、それを大いに利用して参りたいと考えておるわけでございます。また弁護士とか、そういう人を依頼して

被害者の処置をというところでございますが、これはまだ、そこまではいつておりませんけれども、将来はそういう方向でやりたい。というふうに考えておるわけでございます。

それから、次、市民交通教室の開設についてでございますが、交通事故防止という点についてはいろいろ要件があるわけでございますが、道路とか交通環境の整備、或いは交通安全教育、交通秩序の整理、車両の安全性の向上とか、交通事故被害者の救済というところもあるわけでございますが、交通教育教室というところを、現在、は教室というふうに銘打っておりませんが、現在、はやっておりますわけでございます。

御承知のように、子供供の交通災害は、全国からみますと、非常に多いわけでございまして、このうち、学童、園児を事故から守るために、館山市におきましては、交通指導員を

配置いたしまして登下校の際の擁護、それから婦人指導員に対しては警察、安全協会の指導にまわして、学校等においてもこの指導を現在やっておるわけでございます。また、婦人学級とか、或いは老人クラブ等におきましても警察、或いは安全協会、市と一緒にやりまして、交通思想の普及とか、交通道德の高揚を現在やっておるわけでございます。先般も交通安全協会がございまして、いかにどうしても、これは家庭から交通規則をすく家族に徹底させるということが、一番大事ではないか、こういうことで今後におきましては、交通安全母の会というものが、なものを作って毎日おかあさんによって家庭で交通規則、そういうことを常に教育していただく、こういうことをいかにやっていますか、こういうふうに考えておりますが、神戸では交通安全母の会ができておるところもあります。

交通・安全問題は各市民ひとりひとりが真剣になら
 なければいけない問題は、私が申し上げるまでも
 ないことでございますが、それにはやはり交通・安全教室
 とかいろいろなものを作って市、警察、安全協会が積
 極的に指導しなければ成果が上らないことは、当然
 でございます。今後におきましても、そういうことで、対
 処して参りたいと思う次第でございます。

それから市営住宅五カ年計画による百七十戸の年度別
 計画についてということでございますが、住宅は市民の安全
 の場所でもあります。また、最近における家族制度
 の改正によりまして、いっそう住宅は必要になって参って
 いるわけでございます。住宅の需要も非常に多いわけで
 ございますが、館山市におきましては、現在十カ年間に長
 期計画のもとに三百五十戸を一定考えておるわけで

ございまして五カ年百七十五戸を作る計画のもとに四十
一学年度におきましては、笠原の旧厚生寮あとにプレハブ
二階建三十戸を作りました。また本年年度におきましては、
同地に十戸のプレハブ住宅を建てるために現在準備
をしておるわけでございます。住宅は現在笠原地区に
百四十戸ということになっておりますが、これはやはりいろい
ろ地域的の關係もございまして一カ所に集結する
ことはいろんな面において市民の不便を感じるのでは
ないかと思ひまして、やはり数カ所に場所をかえるところ
に作ることに市民の便利をはかることになろうかと思つたので
ありまして、来年度は船形の築港の煙め立て地に鉄筋
コンクリートの四階建三十戸を建て、主として漁民アパートと
いうことで考えておりまして、四十五年度におきましても引き
続きそこにそういう趣旨のもとに作りたいと思つておるわけ

でございしますが、こゝが終りまゝなら、また方向をかえて計画を立てて参りたい。こゝ思っておりますが、現在開発公社が土地を買取整備、いろいろのことをやっておりますから、こゝいうときには開発公社にも願ひて住宅地を便利、なところに作るという考え方をもちて現在うぞんでゐる次第でございします。

次に殺場、衛生管理についてでございしますが、と殺場の発足当時に汚水処理について何か約束があつたかとお尋ねでございしますが、こゝはいろいろ調べて見まゝだが、別に約束というのではないのでございしますが、やはりこゝは法律に基きましてと畜場の汚水を浄化施設をすると、こゝことは当然なわけでございしますが、現在におきましても本年御承知のまうにと室の改善とか、井戸を掘ったり、冷蔵庫を新設して、いろいろ改善をして相当の

成果を現在上げておるわけでございますが、御指摘の汚水浄化施設ということとはきわめて大事でございますし、これは二三年後には立派なものを作りたいと考えておるわけでございますが、これについては四十年度からと場並代化基金制度というものを設けまして、現在余剰金から積み立てを行なっておるわけでございます。

四十年度におきましては約三十万円、四十二年度においても三十万円を考えておるわけでございますが、現在と殺しておるのは豚が七千頭、小牛二千頭、大きな牛が百頭で九千百頭を消化しております。そう手数料が四百七十五万円ほどになります。とにかく汚水によりまして、住民に御迷惑をおかけすることは、ことに申し分ない次第でございますから、なるべく近い将来、遅くとも二、三年後には立派な処理場を作りたいというふうに考えておるわけでございます。以上簡単に申し

上げまゐたが、まだ何かございまいらう。

・八番(安西益男君)市長さんから丁寧な回答がございまいらうでございすが、若干お伺いしたい。最初う失礼制度、これは現段階におきまゐてはそのような方法で仕方がないのではないかと、こゝように感じておりますし、また先ほど申しまいらうにある時点にきたならば、直営方式に切りかえて頂く。これは十分考えていただかない。これはもうすでに相当な都市におきまゐて実行されておゐる。また直営方式によるところ、方が非常な利点があるというふうな報道もされております。そのような今後十分その点につきまゐては大いに配慮願いたい。こゝように思っています。

それから、交通相談所ということについてでございますが、確かに県からは毎月一回ずつ出張されておるといふ現状であります。が、非常に扱っておる件数が少ない。これは一般の人たちが、

まだ知らないというところだと思います。

大体、本年度については警察で扱っている件数が大体七百件というところを聞いております。その数からいえますと非常に少ない。これはまだ市民の方々がこのような果からの交通相談ということを知らないという点もございまして、やはり直接市民等うつなぎの深い市においてこういうた結び付きというものを作っていくことにまず一般の人たちがもつと、もつと安易な気持ちで相談にくる。そういう方法を十分考えていただきたい。

予算の面からいっても、さういふむづかしい相談所の開設というところはないと思ひますので交通対策の一環として相談所の開設をお考え願ひたい。このような思ひわけです。それから三つの文庫市民教室、この面におきましても大体やっております。このことであります。が、文庫教室というものが

を開設することによつて一般の人たちの交通に対する知識というものがもつともっと徹底して行くではないか。

現在におきましては相当各都市におきまして交通安全教育ということについては真剣に取り組み相当市民から喜ばれておるといふことも聞いておりますのでこの点も十分お考え願いたい。このように思っております。交通問題につきまして若干御質問いたした次第でございますが、その点について。

・市長(本間 譲君) たいへん非常に立派な御意見見がございまして、その点につきましては十分考慮いたしまして善処いたしたいと思います。

・八番(安西益男君) 次に市営住宅五カ年計画について、今市長のお話がございまして、御承知のようによ、最近におきましては京葉工業地帯のめぐまゝい発展、さらには

また水更津周回の今後工業地帯として大きく発展。
それに加えて鉄道や電化という面からいきますと、急激に
今後、館山市の発展が予想される。こういう時点にきておる
と思う。従いまして、まず住宅地の確保というところが急
務になってきておるのではないか。このように感ずるものであ
ります。が、もし、でき得るならば、国或いは県、~~市町村~~市
有地等の一覧表を作つて、常々市長さんう言われる
十萬都市計画に対して、そういう今後、目標に向かつて
一体となつてこれに當つて、いつたうどうか。このように感ずるも
のであります。が、もし、そういう一覧表等がお願ひでき
るとするならば、ぜひお願いしたい。このように感ずるもので
あります。が、そういう点につきまして、お願いしたいと思ひます。
市長（本間譲君）ただいまうお話を館山市の置かれています今後
の状況は、そのとおりでございます。

「カーニバル」につきましては、市民間とともに住宅の建設に向かつて進むことが私は適当ではないかと思ひます。

いすゞに「まー」でも住宅の敷地は問題でございますから、きううも開発公社に話したんですが、住宅に適當なところを公社で開発してそれを分譲する。或いはそこに市の市営住宅を建てるとか、官民両方でこゝ建設をしていくことが適当ではないかと思ひます。そういうことを積極的にやつてお話し趣旨にそういう風にこゝから参りかと思ひます。

二八番(安西益男君) 大へん努力されておるといふお話がございまいたが、もう一点お伺ひたいと思ひます。四十三年度におきましては、無形に漁民住宅、漁民を対象としたアパートというお話でございまいたが、一部やはり市民の方たちが入居できるかどうか、そういう点ももしおわかりになりましたら、

たら御説明願いたいと思ひます。

・市長(本間譲君)来年度予定してあります。船形築港のアルバイト、これは漁民の方かというところで進んでおるわけでございます。

・一八番(安西益男君)今後大いに目標達成に御努力願いたい。こゝのように思ひます。

次の三点目のと畜場に関する事でございしますが、二三年のうちには五派なと畜場建設が予定である。こゝのようなお話でありますので、十分期待にしようかな五派なものを作っていただきたい。こゝのように要望いたしまして終ります。

・議長(吉田勇治郎君)二番議員 石井輝久君、御登壇願ひます。

(二番議員 登壇)

・二番(石井輝久君)私は先輩同僚議員各位の御了解を

もとにたいま館山市政における重要事項と見ら
す次の四点につきまゝて本間市長並に關係の責任
者にその所信をたゞさんとするものでございます。

まず第一点は、館山^湾の一部埋め立て計画の現況と将来
計画についてでございます。

私はかつて当議場におきまして公有水面の埋め立て計
画と将来計画について御質問をいたしたものでござい
ます。目下うところ市民の世論の趨勢は賛成の方向が多い
ように見受けられて参つたのでございますが、ただ千葉県立
水産試験所また千葉県立安房水産高校の關係者が一
部に同意しかわる意向が見受けらるるうちに承つておるう
でございす。まず第一にこの対策を伺ひ申し上げたいので
ございす。

こゝらの關係者の同意しかねるところの意向を意に介

さず、あえて埋め立ての計画を押し進めるお考えが、おありですか。また同時に、これに関連いたしまして、水産高校並びに水産試験所移転を県に対して要望いたしておるようにも、お伺いしておるのでございますが、これが見通し、また移転するとするならば、その位置をどうしようにお考えになっておられるかを明らかにしていただけないのでございます。

次に埋め立て計画、そのもうは、館山桟橋と北条桟橋の延長と申しますか、潮入り河口を延長した線までと。また館山桟橋の南側方向を埋め立てると聞いておるのでございます。一、二聞いて、その埋め立て、そのもうは、千葉県道路公社が実施に当るよう、承っておるのでございます。この千葉県道路公社なるものは申すまでもなく、顧問友納武人氏、知事でございます。そうして会長理事は川上紀一氏、これは当市と関係のある副知事でございます。

さらに理事長は理事長として、果て土木部長、角坂仁忠氏、専務理事がえ、果吏員でございまして、森山忠治氏、そう下に二名の常務理事がおるわけであります。埋め立て権は知事にあることは申すまでもない。

もし埋め立てを実施いたします場合は、この公社が直営で実施するのでございましょうか。或いは民間に発注するものでございましょうか。これは、市が発注者ではございませんので、いささか飛躍はしておりますが、その点、市長さんのおわかりになつておられる範囲でお答え願ひたいと思つたのでございます。

そう次にもし埋め立てを実施するといつたまゝで、その将来計画は一体全体どうなつてゐるものでございましょうか。私どもが聞き及んでおる範囲では、まさにフリーハンドつまり手で紙、上へ書いた單なる絵に過ぎないやうに承つておるものでござ

ございます。計画ではなく計画の前う草なる図面である。

このような説明を受けて参ったのでございますが、その後果たして将来計画の確たるものができ上ったのでございましょうか。でき上ったとするならば、それを若干お示しいい範囲でお示しを願いたい。このような考えております。

聞くところにありますと、ハロメートルのタワーを作るとか、或いはプールを作るとか、海洋博物館を作るとか、いわゆるフリーハンドつまり、高等学校の生徒でも書ける程度の思いつき、いわゆる思いつきの図面ではないように承っておるのでございます。そうでなく、確たる将来計画がありますならば結構でございますので、その平面図、立体図、構造図、タワーに要するコンクリートボリューム等々をお示し願いたいですであります。さらに申しますならば、ハロメートルのタワーと申しますならば、自衛隊という話、合いはどうなっております。

ようか。過去に話し合いの事実がございますか。この際伺っておきたいと思ひます。

次にフリーハンドの計画の前々計画と申しますか。計画ならざる計画と申しますか。思いつきと申しますか。こういうものを某民間公社に図面をゆさせたと聞いておるやうでございます。そう某民間会社なるものに埋め立て後、最終利用を一任なさるお考えでございますか。この点明らかにしていただきたいのでございます。そう会社は上場株や一部、会社か、二部か、あるいは店頭売りか、信用や度合いの程度はどんなものでございましょうか。お調べになったことがあるかどうか、伺いたいのでございます。

少々くとも館山市百年の大計を立てんとするこの際、私は日本的な否世界的なスケールを持ったものに設計を依頼するやが市当局や市民に対する職務ではあります。

まいか、このように考えるのでございます。

これはのちにまた出て参りますが、と申しますのは、すでに民間に委託甘市町村の失敗、そういった事例も過去にございますので、この際一応明らかにおいていただくというのでございます。さらに一社に対する随意的な発注でなく世界的なあるいは日本的な教社を指名するなり、何らかの方法があらうかとも思うのでございます。さらに申しますならば、水産高校など、移転を含め、この将来計画にあやまちなきを期するため、市当局を信頼しないというわけではない。民意反映の意味もかね合わせ、この当市議会内に委員会設置の御意思はないか、お伺いいたしであります。

以上、第一点でございます。

第二点は旧九重村、九重、竹原、江田地区を通り、三芳村に至る農業、ガソリン税の還付による、いわゆる農

免道路の新設についてでございます。

本間市長が会長となり、私も吉田議長が副会長となつて組織されております。広域行政推進協議会なる団体がございます。最近では三芳村という合併を要望する声も一部に起こつて参りまい。これは御承知のとおりでございます。広域行政促進の意味からも、またそれだけでなく、旧九重村や竹原、横枕、江田地区など市内でもっとも道路面で遅れております。低開発地域とも申すべき地区を開発する意味からも、ぜひこの通称「農免道路」という国や特定政策をわが館山市に取り入れたい。どうか考えるのでございます。当局のお考えはどうか承りたいのでございます。

三芳村の果道に立っておりますとはるかなたに国鉄の九重駅が見えるのでございます。ここらで住民は

駅が見えましても、九重駅まで五十五分間も歩かなければならぬのでございます。まさに時代から取り残されているといっても過言ではございますまい。

また九重や江田地区についても同然でございます。

曰う当たらないという低開発地区に多目的な農免道路ができますならば、産業的にいかになるおうことでございましょうか。

特に酪農地帯でございすだけに、この道路による恩恵はさわめて大きく、これが実現するといえますならば、後世に至るまで本間市長の名は伝えらるるに違ひありません。

館山市におきましても、まだ農免道路に対する関心がほとんど感ぜられないのでございますが、すでに三芳・丸山両町村の間では協力して、これが実現を計画しております。

ます。千倉町におきましても、真剣に取り組んでお
 ります。ことを聞いておる。でございす。さらに戦時中
 三芳村の山間部に軍隊が道路を作りまして若干
 の施設をほど二、三丁でございす。これがそのまま残
 つておる。でございす。江田の道や、上り山やと
 いてもいい位置にある。でございす。もし真剣に取
 り組めば、実現の可能性は十分ある。と考へる。でござい
 ます。この点の考へ。如何を承りたい。でございす。
 第三点は、市内の船形、那古、西岬、館野、九重、五地区に
 二年制の幼稚園を設置せんとする動きが一部にある。や
 に承つておる。でございす。が、この点につきまして若干の
 質疑を行ないたいと思つてあります。

この五地区のうち、館野、九重、兩地区は全く新設で
 今まで幼稚園はございせん。申すまでもなく保育

園はその予算、保育児保育の人員費を含めまして国費八割、果實一割、市費一割といった予算措置が講じられ、国自体が農漁村に対して社会政策の一環として進めてまいりますことは、予算措置を見ても十分認識できるものであります。

曰う当らない農漁村社会構造を三角形のピラミッドといえますならば、三角形の上部の一部恵まれた階層を対象とする政治は決まっている政治とはいえないのでございまして、逆に政治の対象はピラミッドの三角形の底辺の数多い曰う当らない階層こそ対象であるべきでございましょう。保育所に重点を施行する国の政策、厚生省の政策はまさにここにあると申すべきでございましょう。幼稚園は保育所と異なりまして、予算は全額幼稚園保育の人員費を含めまして市費の持ち出しで

でございます。

ーカーで、その児童の扱いは保育所が一日八時間の保育義務を課されております。これに対して、さらにまた給食も昼めーとおやつを与えることになっておる。でございます。八時間でもなお迎えにこない事情の家庭の児童に対しては奉仕的に九時間、或いは十時間の保育をしておる。が実態なのでございます。ところが、どうでございます。いまいしょうか。幼稚園は朝九時頃親が送って参ります。早いときは十一時頃迎えに参ります。

遅くとも午後一時頃に親が迎えにいかねければならないのでございます。恵まれた家庭は、それで結構でございます。いまいしょう。ーカー夫婦共かせぎ、ことに農漁村におきまして、亭主が勤めに於て、家には細君が田畑を守っております。な家庭では保育所こそ必要なりでは

ございせんでしょうか。社会の底辺に対する日々当る政治が保育所の思想でございまして、お隣の中国では理想に近い保育所があるように承っております。

この点に対する市長のお考えを承わりたいのでございます。幼稚園より二年制を設ければ、館野、九重ではまず、市立保育園はつぶれる恐れなきや否や。この点また九重、館野の保育所、保育の処置をどうしようにお考えになつておられるか。つぶれるかどうか。その処置。そういったものを福祉事務所長に承りたいのであります。

一昨年西岬^{ササ}に一年制の幼稚園を設置したのでございます。その際保育所という話、合いによりまして二年制にする場合には、保育園という話、合いによつて実施するとう話があつたように聞いておりますが、この点教育長に對しまして、そのような事実があつたかどうか。その後

経過、また現状、これについて伺いたい。ところで、また

また教育長さんに対して、一体何故に二年制幼稚園

園設置の必要があるのか、お伺いしたい。でございます。

目下アンケート、その他に、民意を伺つておるようにも

承つておる。でございますが、公聴会なり何かを開く

御存じ思はなかつたものかどうか、これについてもついでに承つ

ておきたい。でございます。正一の民意が無理と思つた場

合には、二年制幼稚園を取りやめる考えはあるかどうか

正一の民意というものはどこにどういう焦点があるかわかり

ませんが、そういった用意があるか、乃至は一年制の新

設、西岬においても一年制の続行の御意思はないも

か、お伺いしたい。でございます。要は社会政策の一

環としての保育所をつぶす。は本間市政にあやまち

なきを期することを私は付言しておきたい。

最後の第四は館山市・三芳村・富浦町の水道組合における水道工事についてでございます。現在、工事ストップのやむなきに至っておりますようにございますが、その原因はともかくといえ、まして、当時ボリング調査も一応そうでございまして、そのボリング調査に当りましては、これは、競争入札による業者を選んだのか、或いは随意心に選んだのか、指名の基準を一応衛生施設課長さんにお伺いいたしております。また改めて別々会社に調査を依頼したということでございますが、その選定の基準、今度こそはという確信ありや否やをお伺いいたしております。責任問題を云々するものではございませんが、参考のため、に会社として請負契約、その条項中に失敗の場合の条項、再調査を要求する条項があったか、なかったか。

今度他の会社と契約された条項中にも、失敗の場合

の条項などありや否やについても、この際課長さんから伺いたいのでございます。また今後の方針、見通しを明らかにしておいていただきたいのでございます。

以上四点を持ちまして質問を終わりますが、市長並びに関係者の御答弁によりまして、また再度質問いたしたいと存じますがよろしく願います。

(市長登壇)

・市長(本間 譲君) 石井議員の御質問に対しましてお答え申し上げます。

まず第一点は館山湾一部埋め立て計画の現状と将来計画についてということ御質問があつたわけでございまして、皆さんも御承知のように館山房州は気候が非常に温暖で自然の風致に富んでおりまして、観光地として、非常にいい条件があるわけでございまして、現在

国民休暇村の施設とか或いはフラワーライン近くは電化複
線も四十四年七月に実現がはかられる。三ついうようなことで
ありますし、なおまた市民センターも来年の四月には竣
工する。それからもうひとつ大事な環境衛生のために必要な
水資源につきましてもは組合水道並びに南部水道等とを
計画しておきまして、いついそ来年の十月頃には完成を
見るといふようなことであるわけでございしますが、そのような
市としても方針にまゝして着々観光対策もかねまゝと
市民の安定をはかるということに進んでおりますが、なかなか
銀山は夏だけの観光客が非常に受け入れられない位、大
勢くるんです。その他、春・秋・冬という四季を通じての
お客はなかなか呼べないわけでして、そういうお客を呼ぶに
はやはり観光受け入れ施設が充実。三ついうことが一番
大事なわけでございまして、その三つをまゝして一昨年来、実

は知事さんが視察に参りまして、その際にいろいろお話
がございましたが、館山は白浜に通ずるはりをあびて、い
くところでお客が泊らないのが非常に遺憾だ。その後、
知事さんも参りまして、館山湾をひたして視察されまして
私も一緒に参りまして、館山校橋にいきまして、いろいろ
検討されたわけですが、ここを埋め立てて、観光の拠点を
作ることにしたいんではないか。こういう示唆を与えてくれ
たわけでございまして、そういうことにつきまして、あそこ埋
め立てをしようということ、いろいろ関係方面、議会
の協議会、委員会、いろんな方面で検討して参ったわけで
ございますが、大体において大に反対もございせんわけ
であつたわけですが、ちやうど安房水産高校から教育
環境上困るからという異議が出たわけでございまして
こつちう話合いをいろいろ進めて参つたんですが、水産

学校の校長さん、PTA会長さん、後援会長さん、いろいろ
お会いしましてお話になってございますが、水産高校は現在
の学校、勝つ海岸道路が非常に交通量が多くなって
授業にも非常に影響するということな、お話をあつたわけ
でございますが、その上にそういう施設ができればいい、そう
自動車もたくさん通るようになる、非常に教育上、考え
なくてはいけない、ということであるわけ、我々とも、まあ、
教育、ということ、非常に重要でござい、ますから、この点
についても、大いに考慮、という、校討を加えて、参った
わけ、でございますが、現在、です、から、環境上、好ましくない
という、学校の、お話、でございます、から、三、四、いう、機、機、機、に、でき
れば、も、つと、環境、の、いい、ところ、に、移、転、と、立、派、な、学、校、を、作
つても、らう、う、こと、も、い、い、ん、で、は、な、い、か、と、い、う、ふ、う、に、考、え、ま、し、て
私も、果、に、参、り、ま、し、て、知、事、さ、ん、教、育、長、と、い、う、い、ろ、う、話、し

まーたころ。知事さんは移転してもいいだろう。こういう御意見でございまして、教育長さんは難色を示さないわけでございます。それにつきましてこの問題を市でどうしようやっておってもなかなかうちがあきませんから、二月二十五日に知事と会いまして、いろいろ状況報告を申し上げ、今後を申し述べたいと思う。こういうことであるわけでございます。

それから質問の中にいろいろございまして、この実現をはかる場合には、その仕事は市であるか或いは業者にまかせるかという御質問もございまして、これは知事さんは、果ては観光道路公社ですか、にやらせるということは、前からお話をございまして、果ての公社で、森山理事さんも、二、三回、これにこらぬまゝで、いろいろ検討を進めておるような状況でございます。それから、この問題を特別委員会を設

けてやるかどうかという御質問のようになりますが、これはつきま
ては、経済委員、建設委員会にはかりまゝで、この仕事を
進めて参りたいというふうに考えております。

そう他、観光審議会というものもございますけれども、そこ
にもはかる考えでございますが、基本的には、市の経済
委員、建設委員の方々に御相談して進めたいと考えて
おるわけでございます。

それから、将来計画はどうか、或いは机上の図面ではないか、いろ
いろお話はございますけれども、これは計画案が知事に
できておきまして、観光審議会並びに各種委員会議員
の協議会にも御説明を申し上げたと私は考えておるわ
けでございますが、そうことは、石井議員も御承知であろ
うかと思ひます。どういうものを作るかといひますと、これは、
なかなかむずかしい問題でございますけれども、現在アイ

デアを提供してやるという意欲に燃えておる会社があるわけでございますが、これは現在う時点におきましては、帝国観光が非常に関心を持って二、三間も方々いきまゝて視察をとげてこられたように熱心な心を示されておられます。赤字でもやる。こういう意欲を持っておりますが、そこにはやはりユースホステルとか水族館とか海洋博物館とか展望タワー・プールというふうなものを主体としていろいろ施設を作ることになっておりますが、そこに南方ムードを打ち出した南方植物を植栽して房総の海洋観光の拠点を作ろうというところでございます。

まだ具体的なことにつきましてはもう少し深く検討して果し御意向もあるでござい。皆さん方とくと相談して決定したいと思ひますが、現在は確定をもちろんでおらないわけでございます。

次に九重、三芳村中に通ずる農免道路の新設についてでございますが、これは農林漁業者が使用する機械、器具、燃料、揮発油に対する税の見返りとして、補助の対象になる道ということでございます。非常にこれは補助率も高いのでございます。一か一ながら、これにつきましては、いろいろ条件があるわけでございまして、大体幅五・五メートル以上とか、延長二キメートル以上、事業費が二千万以上、受益面積が五ヘクタール以上等、いろいろ制約があるわけでございまして、こういう有利な助成ができる道路については、皆さん方とも大いに検討して参らなくてはならないと思います。ですが、この九重から三芳村中に通ずる地域は、安房中央、ぐう受益区域内ということであるわけでございます。が、近い将来、基盤整備事業を行ない、農道、水路等が整備されることが考えられますが、こういうときには、これを

盛り込んでやる必要があるうかと思う次第でございます。
 そのから広域行政の面でいろいろ御意見もございまして、
 これは今後並いうちに広域行政のもう少し進んだ大きな館
 山市の建設というところで三芳とか近隣町村との合併も
 呼ぶかけて、実現をはかりたいと思っておるわけでございます。
 が、安房支庁長さんの肝で広域行政協議会という
 ものができまして、その中にいっても検討することと思いき
 が、石井議員のお話のまうに三芳と館山というのはくっ
 いておりまして、非常に関係がございまして、それら
 面についても今後十分考慮したいというふうに考えております。
 そのから次に幼稚園二年制と保育所の関係について、この
 いうことでございますが、これは教育委員会の本質的には仕
 事でありまして、私の方には市長の意見を申し述べてその線
 についていただければ結構と考えますし、また必要なことは、こちら

かりもお願いするけれども、教育委員会は法律上、独立して
おりますから、あまり市長といえども、いろいろあれをするわ
けには参らぬと私は考えておるわけでございます。この館野
九重の幼稚園の設置につきましては、議会でも取り上げら
れて採決になつておるわけでございます。ことに最近では幼
児教育というものが非常に重視されておるわけでございます
して、私もそうとおりで、だと考えております。幼稚園を設置し
また一年制を二年制にするということも、これは本当に同感
であるわけでございますが、いろいろこれを検討してみますと、
幼稚園と保育園がなかなか両立しない面があるように思われる
わけでございます。館野、九重の方で幼稚園を二年制で作
つてしまつたとしても、保育園にくる生徒がどうもあまり少な
くなつてしまつて、現状においては困難をきたす。また幼稚
園の方は、文部省関係である。保育園の方は、厚生省

の社会福祉施設といいますが、そういうことで、これが行なわれております。保育園の方は助成金が一割ですが、非常に多額のものが出ております。

私は保育所も幼稚園ももちろん必要である。なお、もう一つは勤労者や託児所的なものをやはり、よほど必要とありますから、地域や要望も聞いておりますから、すぐでなくとも、勤労者の託児所というものは、金がかからない程度で将来は、設置する考えを私は持つておりますが、来年やるといふわけではございません。幼稚園の二年制は私は非常に結構だと思ひます。これにつきましては、教育長の方から、地域住民の方々とお会いして、話し合つたりアンケートを取つたりして、住民の方々の要望をいろいろ調べておるわけでございます。何となく保育園がなり立つやうなかつたのではないと、この際、保育園を廃止することになると、

再び保育園の認可というものがむずかくなるのではないかと
考えます。また、保育園或いは託児所というものは、低
所得者に対する処置、というふうに考えますので、保育所
を廃止するような幼稚園のあり方というところについては、私と
ては賛成をしかねる。保育所もある幼稚園もあるという
姿で幼稚園問題に対処して参りたいと思います。
これにつきましては、教育長の方からおとで申し上げますが、私
は私の考えを申し上げたわけでございます。

それから増間ダムについて御質問でございますが、これは、
私市長就任するとき、船形或いは那古地区に水道がござい
ません。あんなに家がこんでおる。大災の場合とか或い
は、保健衛生の面から或いは立派な港がありまして、ミニ
に水を供給することはもつとも重要だということでは、計画
を詰めたいわけでございますが、それにつきましては、富浦町と三

若村と組合を作つて去年の六月から工事を始めて予
定通りやつて参つたのでありますが、振つて土を取つて
いきますと、そこにわるい岩盤がございまして、もしそこにダ
ムを作るといふことになるので、そこから漏水して水が止まらない
という結果になるわけでございまして、この点につきましては
設計者は十分立派なものを決定してやうなんです。が、最初
の設計とおりにはいかないものがあるわけでございまして、
このダムにつきましては、近くは白沢のダムにつきましても、
はつきりしたことはわかりませんが、途中で支障ができて
七千万か八千万追加して立派なものを作リ上げたい。

全国的に聞いて見ましても、地下の底のことでもございま
すから、変更もたまにはあるということも考えられます。
が、このダムも十五メートル以上につきましても、建設大臣
の認可を経るといふことになっておる關係上、果して河

口課とか、或いは建設省の御指導によりまして建設技
術研究所、これは非常に權威があるわけでございまして
この技術研究所によりまして若輩の力学試験等を行
行なっております。今月末までにはこれがすつかりでき上
りまして一月中にダム認可を取りまして二月から工事
にかかって、そうして十月のうちには完成をする。この
うこととでございますが、配管につきましては現在ハット位
が進んでおりますが来年度の七月頃の一部給水ができる
と考えておるわけでございます。ただ第二回の日本上水
道株式会社によってダム設計をしてもらつたわけで
ございますけれどもなかなか予期にまうに参りませんで
その点につきましてはまことに遺憾に考えておるわけでご
います。

今後は石井議員から先ほどお話がありましてたように

確信を持ってこの技術所に委託して立派な設計のもとに完成をすることを申し上げたいと思います。

石井さんはなかなか雄弁家で御質問の内容が広くて或いは落ちたところがあるかと思いますが、また再質問で。

(教育長 登壇)

・教育長(押本穂免君)幼稚園の二年制と保育所との関係という問題で石井議員からう答弁を申し上げたいと思います。

基本的にはたまたま市長さんがおっしゃった線に全く教育委員会としても同じ見解であるわけでございますが、ただいまの御質問に応じましていろいろ経過というよりなものを中心といたしましてお答えにかえたいと思っております。

幼稚園を二年制にしたいという要望は船形、那古、西岬幼稚園から出ているわけですが、特に那古、船形の幼稚園につきまゝてはもう数年前から三つというふうな要望もあつたわけですが、いま近時の幼児教育の重要性が認識がいろいろな意味で高まつてきつつあるときになんだんと熱を持ってくるわけですが、それらが教育委員会への陳情、或いは議会への請願、三つというふうな形できますので、委員会としても取り上げなければなりません。さらに館野、九重の地区におきまゝてはいろいろな要望、事情等ございまして、新設というふうなことについては検討を委員会でも続けていくわけですが、先ほど市長さんがおっしゃいますように、三つうちの幼稚園の問題は二年制になる、或いは館野、九重の新設両方とも教育委員会と福祉事務所と三つという二つう場で関連

持ちつつ検討を催めていかねければならない。三つこの
 といなるわけでございまして、三つ問題はいつも福祉
 事務所長さんとお話し合ひを続けながら進めている
 わけでございしますが、最終的に考えますことは幼児と
 持つところの保護者が保護者を要望するというものがど
 ういう形で正しく把握できるか、最終的には保護者
 の要望を確認ということだろうと思ひますし、もう一つ
 は、その地区、地区におろろ幼稚園・保育所を作り
 たいといましても人数等が非常に少ない場合には両
 立させることもできない。或いは施設、人事、予算という
 ような問題で両立ができない。こういうような場合も
 ありますので、そこらうところをどう解決していくか、三つ
 いうことのためにいろいろ調査等もするわけでありま
 す。なお、具体的な問題として西岬の保育園、方とも相

談するか。こういうような問題がございまして、これは当然私の方から直接か或いは福祉事務所を通じてたり、何らかの形で相談しなければならぬということを知っております。

また、何うために二年制にするかという問題でございまして、幼稚園というのは何年制というのとは別にございまして、文部省の学校教育法が示すところになりますと、二歳児以下は収容しないで三歳児以上という事になっておりまして、現在いろいろところを見ますと、安房郡下り施設は幼稚園が二十八園あるわけでございしますが、その中で七つが一年制で二十一が二年制という事になります。

県下では公立だけでございしますが、八十三の幼稚園のうち、一年制は二十八ですから、六十一は二年制、こういうことで、一応二年制というのには圧倒的に多い。

四・五・五・五・五という二年制がもとも多く、形を取って教育されておるといふことになつてゐるわけでございまして、どうしてもそういうわけにはなないという線はないわけでございます。なお、いろいろ要望陳情ということだけでなくて、又、方々とも相談をして御意見等をちょうだいしたり、特に館野、九重につきましてはただいまアンケートを取つてある最中でございますが、これは一応幼稚園或いは保育所にいうところであろう、来年の五・五以下、全家庭にアンケートを取つてそれを検討して最終に決定に持つていくという考えも現在持ちつつありまして、ことがきわめて重要な問題でございますので、今後検討をいたしまして最終決定に持つていこうという途中の段階であります。ことを申し上げてお答えにかえます。

(福祉事務所長登壇)

・福祉事務所長(池田亮山君) 石井議員さん御質問の中で幼稚園に切りかえた場合に保育園は継続できるだろうか、両立可能であろうかというふうな御質問でございます。まず九重・館野の場合約出生数と現在保育園で保育しております児童の数と一応御参考にお申し上げて将来幼稚園にまゐる場合にあとに残ります。保育園の保育すべき児童の数がどうようになるかという推定をして見たいと思つてわけでございます。

現在、三十六年四月から三十七年四月までに生まれた赤年の四月になります。七五児として小学校に就学する児童の出生数が館野三十八人のうち館野保育園で保育しておりますものが二十七名でございます。その下の年令層は二十四名の出生のうち十九名現在保育しております。

なお、その下、三十九年から三十九年、四月一日までの出生が三十一人で、これを保育としておりますものが三名でございます。要するに、熊野、九重の幼稚園が新設された場合、一応考えらるべきは、この線までの児童は小学校に入學するもので、或いは二年制の幼稚園に入るものと、いう数字になります。

その次、三十九年、四月から四十年、四月に至ります出生数は三十一名でございます。そのうちには保育しておりますものは、二名でございます。

熊野の場合には、それ以下、四十二年、十一月末までに出生した数字を合わせまして、百一人でございます。この中で果たして何人保育園に措置すべき人間ができるかという問題でございます。

これは例えば、現在保育しております中の三十一人の出生

に對しまして三人の保育或いは二人の保育という現状におき
まして二年制を実施いたしましての場合に保育園で措置
する児童はおそらく十人未満になるのではないだろうか
というふうに推定できるわけでございます。

いかに十人未満であろうとも保母はいかような場合でも
二名はなければならぬ。なぜかと申しますと、一人の保母
だけで扱っておった場合には保母も人間でありますので
病気をする場合もあります。従いまして最小限
度二名の保母と給食一名が必要になってくるということ
でございます。従つて御質問の幼稚園と保育園を両
立が可能であるか、運営が可能であるかということ
考えますと、これは福祉事務所や立場から考えますと
いわゆる所得や比較的低い人、なおその中で保育に
欠けた児童があるということとで現在保育していく以上こ

いはあくまでも保育せざるを得ないだろうと思ひます。
 そういつたことから考えまゝで、三ついつた数の少ない場合
 う幼稚園と保育園と果たして一つう地区で二つがなり
 立つだろうか。それから、二年保育にいた場合、西岬
 地区の問題でございすが、やはり同トような現象が
 きております。

西岬はただ今一年保育でございまして、六十九名の
 女生に対して保育園で保育されておりますものが五名
 でございします。これは来年小学校に入る年令層で
 ございします。それから下う年令層は五十七名女生にてある
 うち、二十八名保育されております。

従つて保育所と幼稚園を両立し、また場合には両
 方相当障害困難なものがございます。かような考え方
 を持つてゐるわけでございします。

果たして御質問に対しまして意思を得たお答えかどうか
以上お答え申し上げます。

議長(吉田勇治郎君)午前の会議はこゝにて休憩とい
います。

午前十一時五十六分 休憩
午後一時 五分 再開

議長(吉田勇治郎君)午後出席説員数 二十四名
休憩前に引き続き会議を開きます。
二番議員の質問を続行いたします。

(衛生施設課長登壇)

衛生施設課長(吉田耕一君)二番議員さんの増間ダムにつ
いての御質問のうち市長の方から大体話がございま

たので私に關する点に於て二、三申し上げます。

最初う一点でございますが当初設計をいたしまして
 実際う条項と申しますか、さういふものはどうなつて
 おるか、或いはまた再調査、設計等にもどういう
 ふうな方法で契約がなされておるかという点に於て
 兩者、合せてお答え申し上げたいと思ひます。

当初初う日本上下水道株式会社につきましては親
 行機關でございます。關係う市町村々々と親
 行部でいろいろ調査、検討を加えてさらに果う担
 当課等御意見等指示等参酌いたしまして、
 日本上下水道設計株式会社が適當であるというふう
 に見なわけでございます。

ダム關係う上下水道設計株式会社につきまゝて委託
 の業務内容でございますが基本う調査を委託して

調査の内容といたしましては、上質の調査、応用的な力学
の調査、その他、若くは調査に要しますボーリングの調査等
をやるというところでございまして、それに基きまして、まず、
事業を実施いたします認可の設計書の作成、合
せまして、その認可に基づいて、以後、実施の設計委託
というふうなことが業務の内容でございまして、なお、
再調査の建設技術研究所の委託内容につきましては、
そういった点から参りまして、いろいろ指摘された事項に
ついて、ひろい上げまして、そういった面を中心として、調査を
完全にいたしまして、機関でございまして、果ては課、或い
は認可担当でございまして、建設省の認可を得るまで
の間におきますところの調査並びに実施の設計書を作
成するということ、その他、当初の設計会社と
同様な内容を含めまして、委託設計、契約を実施し

たわけでございます。なおその設計が失敗した場合など
 うするやなというやうな内容があるかどうかという御質問
 だと思ふわけでございますが、契約内容にはそういう項目
 はうたつてございません。なお三ノ一の内容につきましては
 当初の会社或いは二回目の会社ともども話し合ひにより
 まゝで材料管理と監督を最後まで実施するといふ
 ような関係かういたしまして設計の失敗という点に
 ついてどう三ノ一という条項は織り込んでございましてた
 かにこれは市長からもおまゝだが現在で設計は大丈夫
 かどうかという点でございますが、現在で建設技術研究
 所をお願いするに当りまして水道議会や皆さん方
 にも実情を報告しなお新しい建設技術研究所
 の技術屋等にまいります実情を報告も議会にもい
 たしまして、それによつて決定をいたした。なお、三ノ一につま

しても参考的に果て河に課、或いは建設省の研究機関でございます。赤羽土木技術研究所というふうなものが御意見も伺いまして、そこはう大丈夫だろうということでは技術研究所もプラスしまして当初設計をいたしました設計会社と相はかりまして現在進めておる状態でございます。現在、新しい会社におきましては責任を持つて実施設計、完成をすると同時に工事が完成するように責任を持つて実施できると私も考えておる次第でございます。なおその他、今後の方針、見通しにつきましては、市長の方からうお答えがありまして、省略させていただきます。と思います。以上であります。

(助役登壇)

助役(小沢武男君) 石井議員さんに対する答弁の中で市長から午前中申し上げたんですが、その後若干抜けて

おる点がございまいたので、私からその点を申し上げたいと思ひます。

まず、第一点、今回、計画がデスクプランである。

もう少し内容に立ち至った設計ができてゐるかという

こと、御質問でございまいた。これは、先ほども市長から

申し上げまいた通り、たゞいま、段階は、~~い~~わゆるアイディアの段階でございまして、まだ

具体的な段階に入っておりませんので、それ以上の設計

とか、そういうものについてはまだ進行しておりません。

それから、第二点、帝国観光の石前がたまにたまに

が、これに対する信用度合いというような御質問が

うに承りますますが、こういう席上ですので、立ち至った

見解は、いかかと思ひますが、觀念的な点を申します。

と、本件の起る前にゴルフ場建設の過程におきまして

私どもも証人に呼ばれまして、そのとき、状況を申し上げ
ますと、実は果でもはじめて、帝國観光というものが、
果たして平砂、浦に大資本を投じたゴルフ場ができるか
どうかという可能性について相当疑義がございまして、昨
案内、もうに觀光審議会におきましては流しまゝたり、
委員会をこえて再調査をしろという段階がございま
した。そのときに特別委員会、席上で私どもも参りま
したんですが、これはもつぱら、今、いうならば、帝國観光、
信用度合い、調査ということであつたわけでございま
すが、このときには、帝國観光、ゴルフ場建設に伴う
業者関係、金融機関、その他各方面、相当なレベルの
会社が集まりまして、絶対に大丈夫である、バックアップ
する、だ、というところが、確かに証言されてゐると思ひます。
果せるかな、それがもつたと思ひますが、特別委員会

も採扶にやりまゝでござんつとありう帝國觀光ウゴルフ場
ができたという現実をもうあたり見ておるわけでございます。
たまたまこゝ会社が今度、ゑるといふ裏には館山市を中心
に觀光ウ一環としてゴルフ場と平砂浦ばかりでなく
幾つか拠点ウ連係によつて館山市を開發しようという
意欲うほども伺つてありますので、私どもとしては現況は
間違いないんではないかということを申し上げたと思ひ
ます。帝國觀光が今まで幾つかウゴルフ場をやつて
おりまゝで現在七百三十有餘人の職員をかかえてやつて
おるといふ現実とさうに現況を館山市の開發が帝國觀
光によつて相當大きな力をむけてもらつておるといふ現
実う姿から私どもは信用しておるといふ程度に一つ
御了解願ひたいと思ひます。それからバナメートル
ウタワーというアイデアが出ておるわけでございますが、

これについて航空関係がつかかりが、どうかという御質問
でございますが、これらにつきましても、今申しますように正
式のものになっておりませんが、ただ技術者の意見を
私どもも相当当初から気になつたわけでございますが、設
計者の意向を聞きまゝたり絶対に大丈夫である。こ
ういふことは口答で承つております。

航空法などを見ましても、これは飛行場との距離とか、そ
の他によつて違ひますが、これは細かい法律ですから、まだわ
かりませんが、大体見ますと六十メートル以上、高層施
設については、障害灯、赤い電球だろうと思ひますが、あ
れを付けなければならぬという規定があつたやうでござ
います。それによつても、運輸大臣の許可があつた場合には
こゝ限りではないという規定も記憶にあるのでありま
す。こゝらの点につきましても、それだからいいのだといふことで

はて今申しますように技術屋の設計者の意見はそうでない。こういうんでまえてあのアイデアができておるといふことを申し上げておきたいと思ひます。

それから、こういう施設を単独業者にかかせるつもりかというお話ですが、本来、熊山市海岸の埋め立ての如きは、一つは観光施策として取り上げる問題でございまして、これが住宅でもござえる用地をやらせるとかいうことであります。よほどこの会社でもいいというふうに考えられますが、一つのアイデアをもとにして行なわれる埋め立てというものは不可分な関係にあるのではないかというふうに私も考えます。従いまして、これは果ては開発道路観光公社で埋め立てをするわけではございまして、これらの指導権はもつぱら果にあるわけではございまして、ですから、今申します、帝国観光の

信用度合いとかを含めまして適当であるという場合に
果う方で之を決定するわけでございますが、ただこの
場合も館山市がこのアイデアによって行なわれること
が好ましいという意見が出てゐる以上、おそらく果もそ
れを取てくれるであらうというところが予想されるわけでご
います。以上はなほだ抽象的ではございますが、今う段
階では抽象的であることは私も認めておるわけでござい
まして、今後さらに具体化する段階におきましてはいろいろ
うそりの問題が出てくるのではなは、こういうふうに考え
ます。さらにこの計画にましても設計者の話を聞か
ますれば、このアイデアをもとにしてスタートする場合も実
際設計には半年以上もかかる。こういうことが言わ
れておるわけでございまして、今う段階は本当に一つのア
イデアであるということも前提にして申し上げた次第で

でございます。

ニ番(石井輝久君)質問、第二点でございますが、九重、三芳村中に通ずる農免道路の新設につきまして、片丁重なる市長さん御答弁、将来またこの地区に対することは当然考えていかなければならぬといったような趣旨であつたように承ります。

何分にも今後とも僻地の産業開発並びに住民に対する利便という点で多大な関係があるように考えますので、よろしく具体的な御検討を進めらるる様に特に要望いたします。ニ点、農林水産課長さんともども御検討はどうか願いたします。質問、第三点につきまして、一では、二点で了解いたします。

第四点、増間ダムでございますが、まず市長さんから今度こそは確信があるというふうな御答弁がございました。

また引き続きまして担当の衛生施設課長さんから確信に
あふれた御答弁をいただきます。これもまた了解いた
します。ただどういふものですか。ホーリング調査などの
場合にも、失敗した場合には、こういう再調査をしなければ
いけないとか、何らかの弁償の措置を講じなければなら
ないといふような契約内容は、そういった条項がないのが、通
常かもしません。これが無いように御説明を承りました。
一、市長さん、非常に確信に満ちた御答弁でございま
す。で、第四点、増間ダムについての質問。二、について、
質問を終わります。

第一点でございますが、市長さん、午前中の御答弁に
引き続きまして、助役さんから、かなり詳細な答弁を
いただきました。わけでございますが、午前中の市長さん、
御答弁の中に、議会内に二、三に関すること、また委員

会を設置する意思はないかという質問に対して
 答弁といたしましては、経済委員会並びに建設委員会
 により二つの委員会ていろいろ協議をするという御答弁
 があつたように承りました。でありますので、これに関しま
 しては、当局の御意向がわかりました。

それから、水産試験所並びに水産高校の移転の見通
 し等につきましては、非常にデリケートな問題と思われま
 すので、確たる御答弁がないように承りますが、ことに、
 果とう折衝段階にあるようにございます。具体的な話
 といひましても、なかなかむづかしいと思ひますが、巷間伝
 えられているところによりますと、船形方面の埋め立て等につ
 きましても移転の話もあつたようにございます。

これは助役さん、もし水産高校の移転の問題で本当に
 船形を埋め立てて、それで、あそこに持つていく意向が強い

かどうか。その点簡単に結構でございますから、もういつ
ぺんお願い申し上げたいと思います。

それから市長さん御答弁にございます。もちろん私、質問の中にもありました。館山市がやるのではなく、千葉県
道路公社が担当するということは、つまり明示されておきま
すので、この点に関しては別にどうこうというのではござ
いません。もともと市ではなく、千葉県道路公社ですから
私が質問したのは、千葉県道路公社が直営で果た
してやるのか。それとも民間に委託するものであるか。聞
きかかっている範囲で知る範囲でお答え願いたい。私、質問
の趣旨はそこにございます。

それからただいま、助役さんのお話にもございます。午前
中の市長さん、御答弁にもございました。私ども確かに
全員協議会で説明を承り、図面、うきものも見せて

いただいたわけでございます。一からなから先ほども御指摘申し上げましたようにあくまでもそれはフリーハンドと言いまゝて絵で書いたもので、あれはいろいろとでも書けるものでございます。

それからただいま助役さん御答弁の中にありまゝまだアイデアの段階であつて、具体的計画はないやうだ。こういうことでございます。一からば、具体性のない計画だから、アイデアの段階だからということであれば、大丈夫かということを聞くのも、さばな話ですが、こういうに確たるものでないものに対して、たまたま私は質問して、某氏間会社といふ一企業が、御答弁の中に帝國観光という特定う社名が出て来たので、それに触れるんですが、ただいまゴルフ場の詳細な御説明もございまゝたけれども、私は先ほど申しました世界的な意味、或いは日本的な意味にお

ける果たして觀光施設を造^成するに足る或いは確信に満
ちたものであるかどうかという一事に対する御質問なんです
が、それでその会社が一部上場株の会社か店頭売りか、
二部か、これは信用の度合いの判断でありまして、これは
新聞を見ればあるんですから株が幾ら位ということとはわ
かると思います。別に会社の信用公開、非公開でなくて
どこにも書いてあることだ。そういった意味の御調査は、
ございませうですか。どうですかということでございます。
それともう一つは先ほども御答弁の中で市が主導性が
なくて県がきめることであるか、やうな御答弁でござい
ますけれども、何にいたしましても県は館山市が最
終事業計画を立ててお考えなさいといつておる。
埋め立ては私の方でやります。県はこういつておる。
上り計画は市が考えなさいということ。とするならば

某民間会社であるか。それが教社であるか。今後一社に依存するのではなくて、教社よりよいデーターを取り寄せてよりよい設計を見て、それを検討してもっともよい観光施設を館に作る。そういつかお考えをお持ちか。或いはどうしても某民間会社でなければならぬか。

今、日本にもとにかく世界的と言われる位の観光施設造成う会社があるわけでございます。そういつかもう要するに、まだ今の観光地という方は足を持たないとか、なかなかむづかしいと言われているわけでございます。

従って電鉄会社関係の観光施設が栄えるというのにはバスを持ってある中で、自分のお客を自分で運んで金を落すという事で、比較的成功していることも聞いている。そんなことについて助役さんから再度、
答弁をいただきたい。

それからさうにもう一点、ハサメートルのタワーでございますが、私が申し上げたのは、技術者がどの位の風圧に耐えるとか、震動に耐えるとかいうことでなく、ハサメートルという高いものを建てて沖の島で観光開発で自衛隊との間にトラブルがあるということも聞きます。ハサメートルのタワーを建てて海上自衛隊のヘリコプターの運航とかに支障がないか、そういうことについて過去に話し合いが行なわれた事実がないかという質問でございます。

それから福祉事務所長さんでござりますが、館野、九重に幼稚園が設置された場合には、運営について確信が持てるか、持てないか、その点で確たる回答がないように承ります。今後とも仮りに併設した場合やっております確信がなおありますか、もういっぺん回答をいただきたいと思います。それと同時に先ほどもお話がありま

一に、なるほど十人未満の児童しか集まらなくても、
 保育は最小限度二名必要なんだという、市答弁がござ
 いました。もう熊野、九重で二年制幼稚園を設置
 一のために保育所が関鎖するむなまに至ったとき、保
 母の四名の処置如何ということ、先ほど伺ったわけ
 でございしますが、これは答弁漏れでございしますのでまう
 くお願いいたします。

それから、これは教育長さんでございします。県下のデーター、
 安房郡内のデーターより説明もございまして、か、答
 弁漏れで公聴会をやる意思ありや否やという、市が一つ
 答弁漏れでございします。それから、西岬地区で若干能

いておりまして、二年制にすることについて、既存の保育園
 と話し合いう事もありや、な、やという、私の質問に対する
 明確な御答弁がないように伺います。

この点、もういふん。それから民意いろいろな反映の仕方
がございいますが、現在アンケートという形で民意を問うておる
ように承っております。

アンケートの民意の問う方でございますが、先ほど児童や家庭
にあてておいたというお話でございますが、何者に対して発
送したか。その数。

それから回答がどう位現在きておるか。内容は途中でござ
いますから賛否の内容は承りません。どう位きておる
か。その点を承りたいと思います。

それからだれの名でアンケートをお出になったか。その
名前を承りたいと思います。

それからどこにアンケートは返ってくるものであるか。本
間市長の名前で返ってくるものであるか。押本教育長
の名前で返ってくるものであるか。福祉事務所長

名前で返ってくるが、この点をお伺いしたいと思います。
以上が私の質問でございます。

議長(吉田勇治郎君)二番議員の質問中でございますが
時間の都合で締めくくりを答弁の方にも要領よく
簡明に。

助役(小島武男君)道路観光公社が埋め立てをやる。
この場合に民間委託でやるのか。直営でやるのか。
こういうことでございますが、私ははっきりわかりませんが
道路観光公社が入れによって埋め立て業者になるとい
うふうに私は受け取っております。

それから水産高校の移動というところでございますが、
この点につきましては、実は移転もまだできていないの
で、さきとこそだというのを私どもが主観ということ
は、これはあくまでも私見でございます。――申し上げる

ことはできません。それから今度の計画がフリーハンドである。アイデアがもうなまぐであるということ。先ほど申し上げました通り、市が公算かといえますか。

要請によって二社おたわけでございますが、必ず以上、ただ子供がいかげんに絵を書いて出すということはないと思います。二社をもらった場合にどう位予算がかかる。というふうなアイデアでよければ、というふうになるという一つ自信と確信のもとに出ておると私も考えます。さらにそれに関連いたしまして、二社は協議会で申し上げましたので、申し上げますが、今回のアイデアによるものをもらった場合に十四、五億かかる。というように、ことわざでいいますが、おそろく餘山やあう海岸に二万坪か、三万余坪の埋め立てをして、二社だけ投資をして観光施設をやる会社があるかどうかということ。

まず、私も考えるわけでございますが、先般市民に対する各段階によつてPRをやりまゝなときにそういうことを皆さん、不審に思う方があつたわけでございまして、これが単に宅地の造成をするとか、いうことでありますれば、これはいろいろ希望者もある。幾つかの会社も現われるかもしれませんが、こういうアイデアである土地を埋め立てする、採算判、将来性というものを考えた場合にこれはやはり、おろずから、そこに限定されるものがあるのではないかと、というふうに考えるわけでございまして、今回の帝國観光のアイデアが幾つか出てもらつたうちでは、もっとも、館山市の観光の将来に対して、適当であるという観点に立つたがために、これを推奨するわけでございします。

もちろん私もとてはどこでもいいわけではございまして、

それだけの資本を充てそれだけの施設をしてくゐる会社であれば、帝國觀光にこだわつてゐるわけではございません。

こういうことで、仰つた承願したいと思います。

それから、タワーの問題ですが、これは先ほどは、技術者の口頭でう話を申し上げましたが、これは法律的には、こゝつかえないというところであらうと思ひます。

従ひまして、今う段階において、自衛隊にいて、こういうものを建てるからどうかということはまだ、打ち合わせしてありません。もちろん、これは考えでござひます。そんな高いものはあるすゝもない方が、いいではないかといへば、そうなるのでありまして、規定によつて、さうつかえないものならば、それを通すということにならうかと思ひます。

信用の問題で、上場株かどうかという問題でござひますが、これは私も知り得る範囲では、上場銘柄に

入っていかつたまうででございます。

帝國觀光の調査につきまゝでは先ほど申し上げるに
ように市自体としてもそうときにはある方向で調査
はしてございますが、これはここで申し上げることは不適
当だと思ひます。

・教育長(押本禧逸君)率直にお答え申し上げます。

公聴会についてでございますが現在考えておりませんが、
今後アンケートその他、いろいろ問題がでてきた場合に
考慮はしようと思ひております。

それから西御の保育園の方々とう話合ひは現在のところ
まだ持っておりません。それからアンケートのことに
ついてでございますが、差一人も宛先も教育長、
私うところでございます。それから宛先も一校一校は、
先ほど申し上げましたが、五ヶ里以下は各家庭の世

帝主ですから二人あるところも一人、世帝主のところに出ま
した数が二百三十二枚現在返ってきた数は五十四枚で
ございます。以上。

・二番(石井輝久君)大体わかりました。最後に二点上
伺いたいのでございます。

ただいまの助役、埋め立てに関係する最終事業計
画者、たまたま石前が来てきまいた帝国観光以外にな
いというふうに要するに考えるわけであるかどうか。結論
として、ただいまうお話ですと、どこでもなかったが、た
また一社一社なかったと承っております。どこでもなかった
けれども、たまたま一社一社なかった。一からば、今後、もつと
金をかけ、もつと具体性に富んだ会社が仮りに出現した
場合にどういう形式であっても、それにかわって、可能性は
どうかというところを一点伺いたい。

それから先ほどの答弁で某民間会社は上場銘柄の中に入っていないということでございます。これも信用をはかる一つはバロメーターになっておるわけでございます。

こういうことから質問がいったわけでございます。上場銘柄ではないという事実はわかりました。ハナメイトルタワ―について、折衝の事実はなかったという事でございます。これもフリーハンドでございますから計画以前に計画ですから大したことはないと思います。

教育長さん、御答弁の中で西岬地区の話合いの事実がないで結構でございます。よくわかりました。それから公聴会につきましては、将来民意を反映させる意味で考慮するという言葉でございます。もうそういう必要が生じた場合には公聴会を開いてよく御検討願いたいと考えます。

それからアンケート取り方でございますが、二百三十二枚出して
五十四枚目下りところ返しておる。差し出し人は館山市教
育委員会教育長押本先生ということであるそうでございます。
また返ってくるところも同一人であるように承っております。
保育所がいか、幼稚園がいか、これは文部省、厚生省、
それぞれ所管が違ひますから考え方がありますが、アンケ
ート取り方といたしまして、一方が当事者がアンケート
を出し一方が当事者のところにアンケートが返ってくるという
ことは検事、警察、消防長さんが過去に経験
でまことに言葉が逸脱いたしますけれども誘導尋問
的なアンケート取り方というふうにも考えらるうござ
います。適切なアンケートであるようには見受けられ
ないでございすが、この点先ほどの御答弁ですと、
社会福祉事務所長としては協議して同意の上で、こ

とを進めていくというお話でございまして、これは一方的なアンケートの取り方ではないか、技術的な問題でござい
ますけれども、うーんお答え願いたい。

それから、ただいま、私再質問に立ててしまったんですが、福
祉事務所長、答弁病にございまして、簡単で結
構です。

・福祉事務所長（池田亮山君）第一点、厚生、確信があ
るかということでございます。これは先ほど来、申しま
したように、人数、関係等がありまして、福祉事務所とす
れば、保育に欠けた児童があった場合、保育せざるを
得ないということでございます。

その間、児童数の問題で、これを全然幼稚園に切りか
えてしまうか、幼稚園を両立していくかというところは、市、財政
等もあろうかと思うわけでございします。

私はいわゆる福祉行政としてあり方としては当然現在まで
通りの保育園は存続させるべきであるというふうに考
えておるわけでございます。

果たしてそれで人数が減っても運営ができるかどうかという
問題になりますと、一名でも二名でもやるんだというふう
には言い切れない。あまり自信が持てないということをも
申し上げます。

それから仮りに幼稚園に切りかえた場合、保育等、女
性の職員や処遇と申しますか、問題でございますが、
これはむしろ人事課長さんの方からお答え願う問題
かもしれませんが、私たちが一つは構想として考えること
を申し上げてみたいと思ひますが、仮りに九重が幼稚園
にかわりまゐた場合、その保育等は那古船形等、幼
児の三々見未満児が増加が一応考えられます。

そういった方への転用も考えらる。こういうふう考えるわけでございます。

・教育長(押本穂逸君)差し出一人と宛名の問題でございますが、私の方もはじめ案を作りましてときには内容が福祉事務所長さんにも関係します。両方名前でも出そうと思ひました。なおアンケートの内容について保育園の内容につきましては所長さんからの文面をいただく。出ました。そうときに所長さんの方からこれは福祉事務所では別アンケートを出す必要ない。問題は幼稚園の方に必要なくて教育委員会の方で必要なくて。す。で、私の方名前はいらないだろう。こういうことでございました。私名前を出したわけでございます。

・議長(吉田勇治郎君)申し上げます。二番議員さん答弁漏れところもあろうかと申します。一応時間が参りま

たうて答弁漏れに對しては、後刻係を以て答弁していただきます。

ニ番(石井輝久君)議長より申しこもございます。大体質問に對する答弁いただきましたが、なお若干答弁漏れが確かにございます。一かーながら後日、何らかの形で、答弁をいただくか、乃至は次の機会に再質問させていただきます。以上をもちまして。

議長(吉田勇治郎君)議長より申し上げるようになります。はからいます。こゝにて通告による質問を終ります。

日程第二、認定第一号乃至第七号、昭和四十一年度一般会計並びに特別会計決算書を一括して議題といたします。こゝ際申し上げます。

本日の日程、右議案の説明は先日の会議より終つておりますので、ただちに質疑より行ないます。

こゝより認定第一号乃至第七号を一括して質疑を行ないます。

なお御発言の御りはページをお示し下さるようお願いいたします。

二番(中村省吾君)三五ページ、財産管理費のうち工事請負費についての中、備考欄にあります九重、豊房、神戸駐在所に関連して伺いたいと思います。こゝ三つの駐在所に対しては、おそらく補修工事だろうと思います。

館山市内に三つ、補修工事を今後やらなければならぬ箇所が何か所かあるか、なお豊房については本年度の補正予算の中、新築といふことが打ちあがっておりますけれども、なお今後新築見込みも、或いは補修を要するもの、なおまた土地そのもの

がどうなつてゐるか。また二つらゝ駐在所の果てゝ關係
はどうかになつてゐるか。それらの点に關してお尋ね申し
上げます。

財政課長(長谷川広治君) お答え申し上げます。現在私ど
もて計画をしてゐます。範圍内では本年度、豊房駐
在所、それから四十四年度におきまして九重駐在所、
これは館野とゞ地区の關連もございまして、いつにな
るかわかりませんが、あの地区を受け持つ範圍のところに
設けたいという方が警察の意向のようでございます。
仮りに九重駐在所と四十五年度に富崎の駐在所
二つで一応第一次計画が終つたというふうに考えており
ます。

土地に關しましては現在二駐在所が借り上げの状態で
らいてあります。

ニよつてまゝでは本年度一カ所年度末までに整理をいたしたい。こういう計画でございます。

それから県と市とが関係でございますが、市が駐在をする方にお貸しするということな考え方でございますが、家賃の徴収等もござります。一応敬言、署長と契約いたしております。以上でございます。

・ニッ番(中村省吾君) そうしますと形の上では対果的には、市がニッを作つて、それを県に貸してゐる。

こういう形を取つてゐるわけですね。家賃をもうけてゐる。現在、計画でも、九重が四十二年、富崎が四十五年、ニッはともに新築しなければならぬ。こういうことでございます。今度新たに豊房を新築する。こういうことを考えまして、昨年度もおそらく駅前だとかいう駐在所を新築してゐる。その都度私考え

ますので、国家機関である敬義寮、駐在所を作る。
また、果下のもうである。それに対して新築するにわす
か、三十万の果は補助金一かくれない。

豊房の駐在にいた一ましても、百三十万の予算を計上し
て、そのうちわずかに三十万を果が出すだけだ。あとは地方
自治体が持たなければならぬ。二うことは、館山市のみに
はらず、金果下がそういう状態にあるという二ことは、私
も存じております。三うに自体をまだまだ館山市をも
甲二年、四十五年にもかかえておる。そのうちに補修
しなければならぬものが出てくる。多大の金費がある。
そこで決算書についての私を要望でございます。けれ
ども、三うに種々非常に金費が見込まれるのでござ
いますから、何とか駐在所というものを果に移管でき
ないか、どうかという二ことでございます。

県庁敬言審議員会の中にも、この点は種々論議されておるようでございます。

そして逐次県に移管されつつある都市もござります。熊山市についてそれらの点につきまして、県移管についての申請等をいたかどうか。また今後そのような計画があるかどうか。この点について考えをお聞きしたいと思います。

財政課長（長谷川広治君）四十一年度につきまして、県に要望はしてございますが、大体県の意向といえますと、県北を中心に最初手がけて順次、県下に及ぼしていきたい。こういう意向向うように、改事が決つてきました。

ニ番（中村省吾君）どうか一つ。そういうふうには、県北だけ重点をおかれないで、やはり、こういうことが、県南におきましても、こういうことが、地方自治体の中で非常に行政的に

負担になるのだという。ことを主張されて果移管の線
を打ちぬいて強くやる。ただくことを要望いたします。
以上です。

九番(三幣勇君)歳出の面で不用額という欄があります。が
一般会計において予算現額が百分二、特別会計
が国民健康保険に於ては百分十を占めております
が、当初予算を作り、その後何回か補正をしておき
ながら、その後小さくない金額が不用額にのりております
が、大切な市民の税金を使う。予算を立て方にず
さんな面が感ぜられるようですが、その点、いかがでしょう。か
またその不用額は、この後どうしようかと、どう方面へ組み
入れているのか、お伺いいたしたいと思います。

財政課長(長谷川広治君)総括的に不用額について御説明
申し上げます。なお不用額の個々につきまゝて御

質疑があれば、所管課長よりお答えいたします。

決算書でござんうとあり、不用額は若干出ておりますが、この内容を検討していきますと、経常費的であり、これを約六百十九万ばかり、不用額ということになります。が、これは節約をいたしたものでございまして、事業費におきまして十万以上、不用額というものは少ないように考えております。

大体執行率は九七・五に上っておりますというふうに考えております。

不用額が大部分は節約をいたしたものでございまして、事業を未執行に終らせたとはいえ、そうありません。なお、繰り越し額は翌年度、四十一年度で申しますと、四十一年度より繰り越し金として、収入をさし、それを財源にして、それぞれ歳出が組まれます。

九番(三幣勇君)先ほどの質問のときにも申し上げましたとおり、市民の大切な税金を使うのでありますから、今後、慎重に予算を立てていただきたいと思います。

二八番(望月照正君)ただいまの質問に関連がありますのでお尋ねしたいんですが、ただいまの不用題の内容、ページ常々市長が施政方針の中で、P・T・Aの経費の軽減ということを再三我々耳にしておりますが、今回決算書を拝見しますに、中学校費、小学校費の需用費まで不用題が載っておりますが、現段階におきましては、市長のP・T・A会費を軽減して、市から需用費を出すという気持ちから、まことに相反するような結果になっていると思います。現在、P・T・Aの会費の問題、需用費をどうように使っておるか、その二点、ちうと御答弁願います。

・教育委員会庶務課長（干場伊右衛門君）需用費の關係で
 不用額が出ておるといふことでございますが、私の方は予
 算を全部各学校ごとに予算を配当するわけでござ
 います。各学校は配当された金額に基いてそれ
 ぞれ購へてくわけでございますが、その過程において検
 約した場合当然安く打るといふ金額が出てくるわけでご
 ざいます。そういうものがだんだんつもつて不用額となる
 のでございまして、学校はそれをはりいふのだというのをそれを
 充てて不用額がふたつたといふことでございます。

・二八番（望月照正君）わかりました、教育長さんにお伺いします
 が、現在PTAの会費の動向といひますか。ちっとお聞
 かせ願ひたいと思ひます。四十年、四十五年どうなつて
 おるか。前にもこゝろいふたやうな質問が多々ありました
 が、再度関連して御質問申し上げます。

・教育長(押本穂逸君)お答えいたします。会費の値下げというまう問題につきましてはいろいろ細かいものがあります。が、PTAの予算の中にはPTAの運営費と学校後援会費と大きく二つに分かれるわけでござります。が本年度に限りまして後援会費、文え負担で学校、いろいろのものをまかなう費用を全面的になくするように市長さん、文え負担軽減の線にそってなくするようになっています。四上年度の中は多少残っております。細かいな各校についてはわかりません。

・二八番(望月照正君)わかりました。ぜひ市長の方針通りPTAの経費の軽減等なるべくならば数字上でも減らせるような施策を取っていただきたいと思います。要望して参ります。

・二四番(田中祿郎君)七八ページ十四節の使用料及び賃賃料

学校用地借り上げ料 ミミに不用額が九十三万、それから
 ハ〇ページ四百八万一千円、ハ一ページに十八万九千五百円、
 単位が違つたそうで訂正いたします。

それからハ三ページ十七万二千円という不用額が出てお
 りますが、借地料と申しますのは、私はおそらく地代だと思
 います。学校の地代というものは、不用額が合わないとい
 うのが普通だと思ひますが、当初予算のとき、この学校
 の地代は幾らということが契約上にあると思ふ。それが
 不用額があるというのはおかしいと思ひますが、この不用
 額に理由を御説明願ひたいと思つております。

。教育委員会庶務課長（千場伊左エ門君）ハ一ページ、高
 等学校の借り上げ料関係でございますが、一萬八千九百
 円余であるんですが、これは共有地があつたのでございま
 すが、これは年度途中で市で買い上げることになり

まして、その額が不用になったわけでございます。

と八ページの九百三十円、これは千円という単位でございます。
それで、その端数があつたわけで、その関係の不用額でございます。
八ページの百七十一円というのは、やはり予算上では千
円単位でやりますので、その関係の不用額でございます。
八ページの西岬中学校の賃借料、これは当初見込
まりも、向ミウからきまつて、またうが、安くなつたので、これだ
けは不用額があつたわけでございます。

・二四番(田中祿郎君)当初見たより向ミウより、いつてきたのは
安いというのは、あんた方契約がこちらでは、はいくらいいむ
こうでは、この位というふうにやるんですか。おかしいでは
ないんですか。

・教育委員会庶務課長(千場伊左門君)最初、管財と話
して、大体、この位になるだろうということ、私の方は

予算を計上したのでございますが、実際に今度向
こうから確定して来たものが、二小だけ安くなったわけ
でございます。

・二四番(田中祿郎君)大体わかりました。教育長さんに
お伺いいたします。

中学校、小学校、幼稚園の敷地で個人乃至は管
財の所有になつておるものがあるわけでございま
す。二小は以前から、市で買い上げたらどうかとい
うような御意見があつたのでございますが、あうときは、
坪数とか、公共用地がどう位、個人用地がどう位とい
う面を作つて、だんだん買い上げるようにしようとい
う話も伺つておりますが、その後、その問題について
どう程度まで進展しておりますか。簡単に御
説明願ひたいと思ひます。

・教育長（押本穂逸君）お答え申上げます。

園面につきまゝでは幼稚園、小中学校の園面が完全でないところもございます。このうちにつきまゝでは全部園面は作成完了した。また、なお、買い上げということにつきまゝでは私有地、或いは国有地、県有地というものがあつてございしますが、そのうちにつきまゝで買い上げていただくわけにはならないという。意見は、委員会でも、ときどき話題にかりますけれども、まだ、市当局の方に、そういう申し入れを今うところへお寄せせん。今後機会を得てお願いしたいと思つています。

・二四番（田中祿郎君）大体了解いたしました。この決算書を見ましても、相当の地代を年々払つておるようでございますが、その線にそろへ、市の財政に許す限り市で買い上げることを要望申上げて終ります。

・二番(関武夫君)歳への面で二三お尋ねしたいと思ひます。

セページ六項の木材引き取り税でございすが、十五万の調定に対して収入が八万一千円、未納が七万五千円ある。半分以上未納である。現年度だけを見ましても三分の一以上未納がある。木材取り引きの課税客体をつかまえることがなかなか困難であることはわかつておりますが、調定をいたからには、客体をつかまえたわけではございますから、その徴収状況があまりに悪過ぎはしないか、その徴収状況について御説明を願ひたいと思ひます。

それから、九ページ土木使用料、住宅使用料の未納が、三十九万あります。

それから、二五ページ、過年度の住宅使用料の未納が

三十五万ばかりあります。この未済が多いことについては、監査委員の決算審査意見書にも指摘されて要望が来ておりますが、現在どうように徴収されておられるのか、御説明願いたいと思います。

・収納課長（多田俊一君）お答え申上げます。

木材引き取り税の点でございますが、これは主として館山市外業者の申告によるものでございます。

繰り越一分のつきまゝでは現段階におきまゝでは相当整理されております。現年度分におきまゝでも、岩井とか、鴨リ、そういう市外の関係でなかなか申告も、入ってこないというところもありますので、この点につきまゝでは申告と同時に納めさせるようになっておりますが、御指摘のようになかなかできない。

それから住宅使用料の件でございますが、先般も申し

上げまーたとあり、私の方といまーまーでは極力徴収いたしてあります。なかなか低所得の関係もありますが伺いまーても、あかせざいっておりまーて会えない。

そういうまうな関係で滞納がちになる。そういうこともございまーて、これは関係の財政課ともいろいろ相談いたしまーて、何とか、これを自主納付させるといふふうにもっていきたいと考えておるわけでございます。なお毎月私の方では、出張徴収をいたしております。この滞納の大部分が大費でございます。

そこでわざわざあそこは広報車を入れて宣伝してあります。留守の家庭が多い。この中には、長年滞納しておるといふ特定な人もあります。

これにつきまーては、私の方といまーまーでは、あそこは住宅の世話人ですか、そういう人たちと話をして何とか組合を

作りまして納めさせる方法にもっていきたいと考えております。
ーかーながら住宅使用料の組合を作るといふことはまだ、
市に条例もございませんので納税組合を作ていまして、
それに関連させて住宅使用料を納めさせるという方法を今
進めております。

・二番(関武夫君)木材引き取り税について滞納しているが
が、市外の人だというお話でございますが徴収は離れて
おりましてやりにくい点も多めらう(う)と思はれますが、市民で
ありながら固定資産税なんかは昔の古い家に住んでお
って現在あまり収入がない人でも差押えを受けたり
場合もあるわけでございますから木材引き取り税という
のは、取り引きが行なわれて、かかる税金でございますから
払う気があるば払えるはずでございますから、この徴収については
遠慮なくやっていただきたいと思います。

住宅使用料につきましては、私は昨年も質問したと思いますが、
 が、今御答弁にあつたように組合のようなものを作って、
 そこで徴収しやすいようにしてやりたい。というのを述べられ
 たいと思います。それがやはり一番いいと思います。

いろいろ事情で家賃を払えない場合もあると思いますが、
 すが、それを毎月何かの方法で納めやすい方法を取つてあ
 げれば、こんなに多く滞納がなくなるのではないかと
 思います。ただいま答弁を実行に移すようにぜひ
 お願いしたいと思つておられます。

・収納課長(多田俊一君) 御指摘の点につきましては、はつきり
 申上げまして、この分につきましては、^差押えてござい
 ます。

・二六番(秋山三郎君) セーページ十八節、備品購入費でござい
 ますが、予算が十五万ございますけれども支出は一月

もございません。十五万金額が不用額に計上されておる。
ということは、これはどういう理由によるかということをお伺
いいたします。

最初から使わないでいいうなものを予算にどうして計
上するのかわかというふうなことを考えるわけでございます。
二十万の予算に計上しただけでそのまま不用にな
つておるといふ理由。それから二十節の補償及び賠償
金、これは備考を見ますと生垣・地上物件の費用と
ありますが、これは六十三万一千円余、不用額でございま
すが、これはどういうことで、こういう不用額が多くな
つておるか、御説明いただきたいと思います。

・末課長（飯田治男君）備品購入費十五万円について御説
明申し上げます。これは舗装用具でございますが、直
接使う場所がございせんので、一応見合わせられて

でございます。

ニエ節の不用額六十三万一千余は、鏡浦亭から市役所の方にくる市道九号線の改良工事に伴う補償費でございます。ニエは、山崎勝次郎さんが一応再三私の方で交渉してまいりましたが、年度内に承諾が得られなかつたので、それが不用額になりまして、今年に入りまして山崎さんが承諾を得ました。以上説明を終わります。

○二大番（秋山六三郎君）ただいまの答弁で大体了承できるわけでございますが、少なくとも備品の購入費、こういうものが予算に計上される場合にどういうものを買わなければならぬ。こういういわば根本的な理由があるものであります。それが不可能になったということですから、必むを得ませんけれども、今後予算というものが立てられますときには、そうしたことと十分考えて

に、お答え願いたい。

・**収納課長**(多田俊一君)お答え申し上げます。御指摘のよう
に、おとわりの努力が足りませんので、毎年多額の未収額
を発生しております。これはまことに申し分けなく思っております。
しかしながら、パーセンテージから申し上げますと、市税全般に
つきましても、九五・四四％、昨年よりやや上昇しております。
個人や市民税におきましても、現年度分といったいまでは、
九七・六％、それから繰り越し分につきましても、四四・六四
％、それから固定資産税につきましても、現年度分で
九七・五三％、繰り越し分につきましても、三八・五四％、この
よう徴収率を示しております。この年度におきます
館山市の市税収入は、県下二十市で六番目でございます。
我々といいましても、できるだけ徴収成績を上げるため
には、納税組合を強化して、つくというふうに考えております。

・二番(小柴孝君)今の御説明で内容がわかりました。納税組合ができておるところは徴収率が非常にいい。できていないところがあるという御説明は昨年からございませう。納税組合というものは大体何%位ございませうか。参考までに聞かせ願いたいと思います。

・収納課長(多田俊一君)お答え申し上げます。現在、組合の加入状況でございしますが、税金につきましては納税世帯一万五千三十世帯、二に對しまして七千九百八世帯、結果率は六九・五%

・三番(小沢恵太郎君)二の緊要議を提出いたさないと思います。ただいま議題となっております。認定第一号乃至第七号、昭和四一年度一般会計並びに特別会計決算書につきましても、なお、多数の御発言がありと存じますが、決算の審査はきわめて慎重を要することであらう

うと思ひますので、ひとまず質疑をこゝで打ち切り
 まして決算審査特別委員会を設置しまして、審査に
 はなお相当の日時を要するかと存じますので、その
 期間を三月定例会までと一審査を付託さしますよう、
 ニニに議会運営協議会を代表いたしまして議事進行の
 動議を提出いたす次第でございます。

なお委員の数は十名といたしまして選任の方法は、議
 長、監査委員を除いて任期中、全員が決算委員に選
 任されますよう配慮され、議長の名義によりて選任して
 いただきますと存する次第でございます。以上申し上げま
 して満場の御賛成を得たくニニに願ひする次第でござ
 います。

（「賛成」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）ただいまニニ番議員君より提出さしたる

議事進行の動議を議題といたします。

本動議は認定第一号乃至第七号について質疑はこゝで打ち切り、慎重審査の必要上特別委員会を設置してこれに付議し、特に閉会中審査の特別付託といったことではないということであります。

おわかりいたします。こゝ動議に御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。よって決まっております。重ねておわかりいたします。

本動議によりますと委員の数は十名選任の方法は議長監査委員を除き本任期中全員が一度決算委員になるよう適当な方法で選考議長において指名するといふことであります。こゝに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。よって決ま

こより、決算審査特別委員会に委員を指名いたします。

二番議員 石井輝久君、五番議員 藤田益治君、

八番議員 黒川正君、十一番議員 菊井敏博君、

十四番議員 遠山ヨネ子君、一七番議員 江田徳太郎君、

一九番議員 島野茂樹郎君、二三番議員 飯田義男君、

二六番議員 秋山六三郎君、二九番議員 鈴木市蔵君、以上

十名の方を決算審査特別委員会に委員に選任いたします。

ニハ、御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。よって決ま

した。ただいま選任されました決算審査特別委員会に認定

第一号乃至第七号の審査を一括して付託し、閉会中

の継続審判議を付議いたします。よに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。よて決まりました。ただいま選任されました委員の方は本日中に正副委員長、互選をさいます。御報告下さいますようお願いいたします。暫時休憩いたします。

午後二時四十三分 休憩

午後三時 五分 再開

議長(吉田勇治郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。二の除御報告申上げます。

決算審査特別委員会、正副委員長を互選の結果

委員長に秋山大三郎君、副委員長に遠山ヨネ子君が
それぞれ当選され決定いたしましたので御報告申し上げます。
日程第三議案第六十二号についての質疑を行ないます。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)おはかりいたします。議案第六十二号
を討論省略原案通り可決するに御異議ございませんか。
(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。よって本案は
原案通り可決確定されました。

日程第四議案第六十三号についての質疑を行ないます。
二一番(関武夫君)二条例の改正については異議はござ
いませんが、一つ伺いたいと思います。

附則の第二条と第三条で二条例本文の施行期日が
違つておるわけでございますが、その点に關して御

説明を願いたいと思ひます。

消防長(星野清之助君)御説明申し上げます。施行規則
の二条の方は、退職消防団員の退職報償金に關する
階級を決定方法の経過措置についてうたつておる
わけでございます。

第三条の方は、非常勤消防団員の再入団者にかかる
ところの勤務年数、算定方法の経過措置について
うたつておるわけでございます。

第二条の方は、施行期日が本年の九月七日でございます。
けれども、それに対して、本年の四月一日から適用す
るということになっております。これは、一昨日、簡単に
申し上げましたように、さか上つて四月一日から適用する
というところでございまして、内容的には、増額分についてその間
の分についても増額するというところで、消防団員に非常勤に有

利な措置であるというところでございます。

それから第三條の方は本年の九月七日以後のものについて適用する。——それで以前のもうについてはすでに支給の向きもございしますが、そういう方をあとから返還させないという。これも消防団員に有利な措置でございます。

議長（吉田勇治郎君）おはかりいたします。議案第六十三号を討論省略原案通り可決するに御異議ございませんか（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決されました。

日程第五 議案第六十四号

二番（関武夫君）午前中、安西議員より通告質問の中でこのことに触れておりましたが、三という制度を市が取り上げて実施に踏み切ったということは市民のためにま

ことに結構だと思ふわけでございます。

本条例については異議はございませんが、取り扱い方法について御質問したいと思ふわけでございます。

保険料の領収書の問題について伺いたいんですが、保険者が保険会社である。契約者が市である。被保険者が市民というわけでございます。保険会社が出す領収書はおそらく館山市長一枚だろうと思ひます。我々被保険者が窓口で金を払い込んだ場合に、だれの名前で出しているだけるか。市長の名前で出していただくか。伺いたいわけでございます。

商工観光課長（山田俊康君）お答えいたします。保険料の領収書は出しません。保険証をただちににお渡しして領収書は出さない。そういう方法で他、都市でもやっておりますので、そういう領収書を出さない。

二番(関武夫君)再度お尋ねいたします。そうすると私
から私が市民課の窓口に来て申し込むと三百六十円払え
ば、その場で損害保険会社の名前、保険証を渡していただ
けるんですか。

・商工観光課長(山田俊康君) その場でお渡しいたします。

これは損害保険会社の名称と市長の名称と両方入っている
まうであります。

・二番(関武夫君)了承いたしました。私に心配したうは取り
扱ひ者がこういう間違ひはあるはずがないわけでございま
すが、被保険者が積金を払い込んで自分は加入者にな
っておると思つても、その取り扱ひする人がその名前を保険
会社に報告するのを書き落した場合に被保険者が入
つておつても会社がその名前を受け付けていないということか
今後何年か間には生じないかということとを憂えたうで

今のような質問をいたわけでございますが、今の答弁で、
保険者本人が保険証を持っておれば、あんな間違いが
あっても、会社は責任を持って払うだろうと思ひます。
わかりました。

・四番(伊賀多朗君)　この保険は、任意の保険でございますね。
強制保険ではなくて、先ほどもお話しがございまして、
将来に市に移すわけですが、現在においては、どの程度加入者
の見込みがあるかという一ことと、どう位たったら、市の方に持つ
てくるかという一ことを。

・商工観光課長(山田俊康君)　市長、先ほど、安西議員さん、
答弁の中にありまして、大体計数的に成算がある
という数字は、二万人程度加入しないと、ちよつと経営が困難
である。なお、館山市が来々四月から始めまして、当初他
の都市、状況などを考えて見ますと、市の場合、五、六

千人の第一年度入らないのではなかつた。今まで他の都市に照会したところで初年度で率がいゝところで大體一ニ%から一三%程度悪いところですよと五%位というやうな数字も出ておられます。相当、PRにかければ加入率は非常に悪いと思います。全国で一番いいのが川口市でありますけれども、川口市の場合は四年目三〇%になっております。現在三〇%で八万人ほどになりまゐる。

議長(吉田勇治郎君)おかけいたします。本案を討論省略原案通り可決するに御異議ありませんか。
(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。よつて本案は原案通り可決さしめまゐります。

日程第六 議案第六十六号 乃至六十九号を一括質疑

を行ないます。

一五番（石井正君）民生・文教関係につきまゝ二・三ます
―尿処理場関係でござりますが、真食の野留ごうの
問題、もうサ―詳しく御説明願いたい。二いば一点
さらに私は会議ごとを考えることは今回も脱水機の改
良というところで九十何万出ておりますが、非常に予算
が投ぜらるゝ。いわゆる本来の目的であるところの汚物
がつかひまゝないで金が吹い込まれるような感もする
わけでございますが、実際に何回か途中で見学も
してあります。そこで改めたいことは、現在
運用状況、特に水の問題についてさらに本年にだい
ままで収入と申しますか、いわゆる収入・支出の面
こう点についてわかる範囲でお話をいただきたいと思います。
す。

第一点は、ニニバーツの消防関係ですが、今回消防車
 事故の処理について一二問題が出ておりますが、まず
 九月定例議会における報告以後、負傷者がその後
 どうなされておるか、この経過について御報告を願いたい
 わけでございます。さらに事故車について追加予算が
 出ておりますので、事故車最終的に幾らかかつたか
 という点、合わせまして総額、この事故に幾らかか
 るか、この点について九月以降の問題を再度御報告
 を願いたい。さらにここに先初式におきまして、報
 告費
 う四万円について御説明がございまして、この点、もう
 一度御説明をいただきたいと思います。

次は教育費の関係で用務員の賃金が上がっておりま
 す。これは神戸小の用務員ということになっておりま
 す。が、一休いつから臨時に雇っておるかという点、また

今後いつまで臨時でいるのかという問題。二、経過を御説明願いたい。さらに二四ページ女子校に対する寄付金が約三十万あるわけですが、これは私が知る範囲では二度目もないかと思うんですが、この説明が非常に簡単であつたんですが、もう少しくわしく御説明願いたい。以上三点。

衛生施設課長(吉田耕一君)お答え申し上げます。一、水処理費の關係でございます。

十一節の需用費、或は十四節等でございますが、確かに相当の経費をかけておるといふことは事実でございます。

まず、水の問題につきましては、皆さま方いろいろな御協力御指導をいただいて現在まで完全に十分だといふだけの取水は、まだ困難でございます。

ーがながら一般の環流水等を利用いたしまして、
 大体今一七〇程度、希望薄いたしておるわけであ
 りまして、おるわけであつて、今後なお水源を求め
 ます。十二分水源を求めていかねばならぬとい
 うふうに考えておるわけであつて、水取得とい
 う面に力を注いで参りたいと思つておるわけであ
 ります。次の防空、この借上げでございますが、二は三十
 年、当時より、実際に使用しておたつてございま
 す。一が、ながら、それをそのまま、現在まで、完全
 に投入して、おるわけであつて、そのま
 ま、借り上げておるわけであつて、たまたま、二に今
 回上げました、真倉の防空、このよう、なもうが、た
 りの所有地に、また、かつておるといふ、うな結果が、指摘
 されたわけであつて、私も、その内容を調査いた

結果、二名の所有分にまたがっておるという事実を発見したわけでございます。現在まだ借用していかなければならぬという現況でございますので、発見された時点におきまして、三十六年から現在まで一応単価を見まして、その単価と同額で、ここに予算を計上いたしまして、借り上げ賃をお払いして、なお、もうクーラ期間にお借りしたいというふうに考えるわけでございます。

大体年間一万八千円という単価で御相談いたしまして、計上した次第でございます。

なお、総体的な処理場や運用状況等につきましては、省かせていただきます。脱水機や事故によります事故と申しますか、機械や故障につきましてはでございますが、ああした機械で操作いたします施設でございますし、特にきいかな青水という処理でございます。ごみい

ろいろな金具類、その他いろいろものが入っております。関係から齒の摩滅等が著しいという関係から、ニール改良を行なうといきたいというところで予算を計上いたした次第でございます。以上でございます。

・消防本部文長（若田実君）去る七月の末に消防車の事故を惹起いたしまして、当面の責任者といったまいりまして、まことに申しわけなく存しております。その際事故車に乗っておりまして、粘着、勝重消防士の病状でございますが、

すが、当初三カ月位は休養を要するということでございますが、現存するで三カ月を経過いたしておりますが、一番大きな傷害でございまして、腰椎の圧迫骨折は、全治いたしまして、歩行も十分できるようになっております。ただ、頸椎と申しますか、首の第四と第五の頸椎の間が十分でございせん、これは、薬液を注射

いたしましてレントゲンを撮影いたしまして、その状況を見て判断をすることになっておりますが、その結果を見なければ、今後幾日位、要するかということは正確にはわからないわけでございますが、一うとうと考えて申し上げてはなんですが、もう首う方もそう今後一月も二月もかかるという病状ではないというふうに考えます。なお、柏市消防士に要しまして費用は現在まで病院の支払いは十三万七千四百でございます。なお、今回お願いいたしまして五万六千円は十月一日より十二月二十日まで入院治療費でございます。なお、お尋ねの今回事故によります負傷者、現在まで支払われた療養費の総額は十三万七千七百七十一円となっております。

それから車両でございますが、これは一号車の部分

に要します費用が十五万でございます。これに取
り付けてございます。いろいろの付属品が破損いた
しまつたので、新しいものと交換いたしまして、装備
いたしまして、この費用が約十一万でございます。
合せて二十六万かつております。

現在までの支払わしめた総額は、事故補償、医療の
補償、見舞金、休業補償、すべてを合わせまして、
三百十八万八千七百七十一円となっております。
救々の不任意によりまして、多額の市費をこのように
お支払いいたしまして、本当に申しわけないと存じており
ます。

なお、三番目の御質疑、報償費の四万円を補正で
ございますが、これは当初等報償費というふうに
なっておりますが、当初に消防業務に協力して

いただきます。一般協力者の方に報償したり、そういう
ような費用でございしますが、この中に先ほど消防長
より説明いたしまして本議会に提案いたしまして
~~退職~~報償金もこの中に含まれるわけでございます。
~~退職~~報償金を支給該当になつた方は、この中から予算
の範囲内で必ずということになっております。ために今
回補正をお願いいたわけでございます。この四万円は、
十大部の寺田さんという方が不幸にも死亡しまし
て、この方に支払われる~~退職~~報償金の費用でございま
す。で、御了承のほどをお願いいたします。以上
説明を終わります。

・教育委員会庶務課長（千場伊右エ門 君）神戸小学校の
用務員の関係でございしますが、四月に本採用にすると
いうことになった用務員が八月に結婚のために~~退職~~

しまつたわけでございます。それでまた仕方なくほかの人を雇つて現在まだ臨時でやつておるわけでございますが、約六カ月臨時でやつて本採用にするということとで現在賃金で支払つておるわけでございます。その間うもつをお願ひいたすわけでございます。

それから安房女子校の關係の負担金でございますが、これは安房女子校が実習教室ハ教室を作つた。

そうとき安房郡市の市町村、これは一人千円ずつということと補助願ひが参つたのでございますが、その餘り市分として三百九十二名生徒があるわけでございますが、その分一人千円というところで三十九万二千円、安房郡の方は五百八十名、統計九百七十二名という在校生徒数に千円かけたものゝ補助金、これは三年にわたつて補助というところで四十二年度分をここに願ひいたすわけでござ

います。

二五番(石井正君)再質問します。処理場の問題ですが、今担当課長が認めたまうに非常な金額を使っておる。一七%の稼働しかしてないという事実を認めたい。そういう中にある本年一年間につぎ込んだ金というものは、相当の額になるわけで、水の問題にいたしましては、開くたびに今度はこうしてやるから大丈夫だ。今度はこうしてやるから絶対だめだということとは、答弁しません。いうことで、引き続いて問題が生じておるわけで、何年頃に完全転換されるかわからないが、今後の方策として、もういつペン伺いますか、どういうふうなお考えでおるか。再度運用面についてお伺いしたいと思つたわけで、す。

それから消防車の問題につきましては、九月の議会では

提案さいに予算を我々は一応のんだわけでございますが追加が今度出ておるので、総額をも聞きなうなわけでございます。御了承いただきたいと思ひます。

それから昨日の説明では、初式と関係ではなくて、四万円は退職職者にやるというふうなお話で、初関係が、たうな説明であつたので、お伺いしたんですが、初が用に使われるようなので、これも了解いたしました。

次に用務員の関係でございますが、これは臨時でなく、正式に採用することが望ましいわけですが、一、二問題があるようです。学校の立場からしますと、二人が、いい。あつた人がいいという、ことであるかもしれません。例えば、女より男がいい。或いは男より女がいいということも聞いております。一、二は担当委員会といたしましては、やはり臨時でいつまでという形で残

さずはつきり断をくだいて一日も早く正規にやることが
妥当ではないかと思うのでその点についてのお答えをお
伺いしたいと思うわけです。

それから女子校の寄付については方で三ということをあつて
あるので仕方がないというのですが、これは助役さんにお
伺いしたいと思いますが、三という問題は前にもありま
した。三というような私立高校に対する寄付、これは
学問の奨励上、金があれば非常に結構なお話です
けれども、三という向きの寄付が非常に多いので、ど
ういうふうに市として考えるにたつてあるか、この点に
お伺いしたいと思っています。

衛生施設課長(吉田耕一君)お答え申し上げます。

先ほど御用率というふうなお話でございしますが、
私に申し上げまいが一七％というものは、十七倍というこ

とでいわれる所飛り水で希薄する度合いが一七倍である。できれば二十倍まで持っていきたいという考え方であと漂流水等を現在より段階では求めるよりほかはないというふうに考える次第でございます。

それから先ほど御指摘の収支のバランスということでございますが、確かに収支のバランスを取るということは困難でございます。従いまして私どもとでもできるだけの経済的な面で運用でき得るように持っていきたいという考え方を持っておるわけでございまして、収入状況を見ましても投入の料金だけでございまして十石当り三百円程度の料金で徴収をしておる次第でございます。なお利用率につきましても大体九〇%以上利用をなされておると考えておるわけでございます。

今月あたりの状況を見ましても見金に利用をしてお

四五キロの投入をして、ところが完全でございすが、それを
四九キロ、五〇キロという過剰投入という状態になって
おるわけでございます。私も、三ノ川に過剰投入を
おさえて、と、という考え方で現在運用をしておるわけ
でございます。運用部面につきましては年間を平
均いたしまして、九五%以上運用はなさしておると
いうふうに考えるわけでございます。ただ、ただいま
申しましたような十倍の希薄が困難な水の状態であ
るというふうに御了承いただきたい。このように考える次
第でございます。なお、この十倍までの不足というも
う一つについては、井戸とかいろいろの面を検討いたして
参ったのでありますが、先ほど言われましたように、今度
井戸を掘れば出るのだという、確実な御答弁はなけ
なかつた。私も、でも、得ません。一か一ながら、三ノ川、た

食山町議会
でいつまでもいづということでは困りますので、できるだけあらゆる方法を取りまいて、こいば対策に向かつて努力をいたして参りたい。二つように考える次第でございます。

従いまして、先ほど、収支関係でございますが、四十年度の決算書を上程されておるわけでございしますが、四十年度を見ましても、二、処理の手数料関係は百六、七十万程度、かたがは、その反面、人件費を除きましても、大体四百七十万程度の支出をしておるが、現状でございまして、とうてい処理場の運用というものが、収支を取って、いづということとは、現状では無理だ、というふうに考える次第でございます。その他、一般財源等をお願いたしまして、こいばの整備をはかつて参りまして、

市民に御迷惑をかりないような方向に持って参りたい。このように考える次第でございます。

・教育委員会庶務課長（千場伊右エ門君）神戸小学校
校用務員の関係でございますが、足数内のも
うでございますので、私の方ではある程度試験期
間と申しますか、その期間を見たのでございすが、
二月に一本採用したいと考えております。

・助役（小出武男君）安房女子校の建設費の問題で
ございますが、これはいわゆる私学の振興と申し
ますか、安房女子高校が館山市にございまして
市郡を含めまして、子弟の教育に大きな役
割を果たしておるといふことから、お発いたしまして
私学の補助という問題が、前々からあったのでござ
います。が、たまたま特別教室の増築を機会に

いたしまして市を含めまして町村在校生一人千円と
いう基礎で寄付というところが町村からまゝとまって参り
まして市としましてもやはり考え方としては同様でござ
います。が、果立に入らない人等吸収してありますし
さらに最近には内容も相当充実してあるような現状に
かんがみまして町村と同様に市も寄付するということ
に踏み切ったのが本件でございます。かような平心味
でう寄付でございます。

さらに付け加えて三ノ丁の寄付が相当多いわけであ
ございますが、実は学校を含めましていろいろな寄
付を自治体に相当一わ寄せされておるといふこと
とは、各市の世論でございまして、それはやはり果
願いて補助金、負担金、寄付金というものを
ついで調整をはかってもらおうではないかという

気分が最近起きておりまして、果ても、地方課を中心に
として、この調査をしております。

要するに、財政法の趣旨によりまして、それぞいの負担
をきめ、国やものは国でやる。果のものは、果がやるという
いわゆる財政法の精神でございしますが、もちろん特
例はございますが、この二つの区分をはっきりきめまして
今盛んにできておる団体や寄付金を、末端の市に
一わ寄せにならないように、この二つの空気が相当盛
り上っております。私も、そういう面を考えまして
本当に市民のためになる寄付。この二つのものであれば、
納得できますが、適当に割りふり、きめてきた寄付に
つては、本当に今後検討しなけいばならないのではないか。
この二つの気持を持って、おるわけでございます。以上。

。一五番（石井正君）それぞい所管の課長さんの御答弁

よく了解いたしまして、ぜひ、その発言の方向に准めていただくことをお願いしまして質問を
終ります。

○二番(菊井敏博君)衛生、教育、観光に関連して三
点お聞きいたします。

第一点、どんあ焼却炉のその後ですね。順調に
効果を上げていくかという点でございます。

さらにどんあ焼却炉が完全な能力を果たして
いた場合、現在ゴミ処理場ですね。館山市の運搬
車があるに捨てて悪臭をはたておる。こういう
ものはどうなっておるか。さらにこの処理場と
館山市としては、どうな計画を持っておるか。

それから第二点は現在、二中にビデオ装置を購
入いたしまして、教育といたしまして話をお聞
きいたします。

ニういふ事實があるかどうか。これがあるとすれば、ほかの中
学校でも何台入っておりますか。お聞きしたい。それか
う第三点は先ほど石井議員さんから質問があった
館山湾の埋め立てに関連するわけでございますが、私
も石井議員さんと同じく一業者が推薦というものは、
反対するもので日本全国で優良業者から、その資料を
取り合つて各地で一番模範とするものを取り入れる本
当の館山市の観光というものを作つてもらいたいと思
うのでございます。そこで先ほど市長と助役の話の中
容が違ひがあるので、もう一度あえて質問するもので
す。ということは助役さんは帝国観光以外、この工事を
やつてくれるものがないかという先ほど発言
がございました。

市長は土木、経済両委員会にかけて今後進めていき

ないという事でございますが、事実、果道路南発
 公社の森山常務と館山市と帝国観光の三者の
 話し合いによりまして、果の方から帝国観光に対
 してこの保証金として四億円くらいという話があつた
 と私は聞いております。また帝国観光もそれを
 受けたという事実があるわけでございますが、これは……
 議長（吉田勇治郎君）発言中ですが、議事外になります
 ので、今御質問は。

衛生施設課長（吉田耕一君）トんあ焼却場、運賃状理
 でございますが、これは現在完全な運賃をとげており
 ます。なお、その他近所へとくさいとかいろいろ迷惑と
 いう点は確かにあるわけでございますが、あの施設が完
 成するまでの期間等につきましては、えう河川敷を借
 用いたしまして捨てた地点がございます。あう付近

にはまだ相当御迷惑をかけておるといふうに考えて
おるわけでございますが、できるだけ早く御迷惑のか
からないようになりたい。こゝうに考えるわけでご
ざいますか、なかなか考え通りにも進みません。とい
うのは現在三ツトン炉でございます。

一カーながら月曜・水曜といううな時点になり
ますと、三ツトン・六トンといううな過大な収集をす
るといふうなときも月に三回程度あるわけござい
まして、こゝういふ場合にはどうしても、そゝうな場所
に捨てざるを得ないといううなことが、一点とそれか
らもう一つは、一般に搬入されますゴミ等につまみ
ても、できるだけ焼却炉において処理をするといふ
考え方で進んでおるわけでございますが、朝早く或いは
夕方退行後、或いは日曜日とかに一般の人が以前

捨てておいたところに捨てておるといふ点について、管理
 者或いは日直という制度をおきまして、おつておる
 わけでございますので、完全にその一面を徹底させて
 参りまして、焼却をするように努力をしておるわけで
 ございますが、なかなか急激に徹底は困難であると
 いうのが現状でございます。カーナガワ無理だとい
 つて、やらずにおるわけではございませんので、その一面を
 いつときも早く解消するよう努力して参りたいという
 ふうに考えておる次第でございします。

なお埋め立て地めとにつきます。今後どういうふうな
 考え方が、御質問でございしますが、私ももう方と
 いたしましては、埋め立てに必要な目的を持って借
 りて参りますので、埋め立てが満ぱいになつて、客上
 ていまして、施設課としての計画はございしません。

他の面ではどうですか。私の方としてはございませ〜。

・学校教育課長(山根春夫君)ニ中で使っておりますビデオニ
よは現在ニ中だけでございます。ほかの学校ではございませ
なぞかという。ニ中は学級数が非常に多い。同じ学
年の数学級の二つの教科をひとりの担任が受け持つ
関係で同一時間に実施できないので、ビデオにてお
いて活用するというところで有効に活用されております。
今後三というところが予想されるのは一中でございまして
その他の学校は学級数がそう多くありません。

今急いで必要だということは考えられません。

・一番(菊井敏博君)完全彈転していて元の処理場に拾
てておるといふのは納得できない。完全彈転していて
足りないものなりばもうサ一増設。完全に施設を
作ってもらうと思います。それからニ中やビデオ

ことですが、二小は非常に生徒がよき学校で、先生にとっても、ああいうものをほいという声は、小さい僻村や中学校に多い。私も事実、二、三の人から聞いたんですが、二中は県下の優秀校であり、ああいうものをどんどん持っていけると僻地や中学校は質が劣るのではないかと、ぜひ買ってくれという話を聞きますが、今が話ですと、二中と一中ではかなり違いはないというのではというわけですか。納得できない。もう少し詳しく教えてもらいたい。

・学校教育課長（山根春夫君）現在、施設はテレビで放送するものを録音録画しておいて、それを授業のときに使う。ですから、二学校位や中学校は同時にテレビを生で視聴して十分使えるけれども、学校数が多いと、数学級教えるので、全部集めて使うわけ

けにいかないので、自分ら授業のために使うために録画
が考えられます。将来市の方によりが出来ますれば、
テレビ放送の担当者でも置いて録音、録画させて置いて
てあとで活用することも考えられますが、現在るところ
では、配当予算では買いません。これは資料センターの方
で一応来年度考慮しようという段階になっております。
一一番(菊や敏博君)予算がないで買えないのか。という
施設はほかの中学校にいらぬのか。その点をはつきり今
の説明ですと予算がないで買えない。

・学校教育課長(山根春夫君)教育が高度化すると必要
になって参ります。一カー。現在職員もそういう
技術もまだ十分でない。また、それほど使う構想も
ない。うに見受けられます。そういうことでおそらく今すぐ
に買て用意しても機械化の問題もあります。

そういふことになりないうも限りません。十分検討の上、進めたいと思います。

・ニッ番(中村省吾君)ニ項目だけ質問したいと思ひますが、先ほど二五番議員の方から消防関係で御質問がございまゝが、私先般から消防ノ事故につきまゝて原因が追及されておるといふ答弁をいただいておつて、いまだにいかなることによつて事故が起きたといふ報告を受けやない。新聞で見ますと、当該の運転手が行政処分を受けたといふことを拝見したわけでござひますが、このことが事実であるかどうか。それに関連いたしまゝて原因も、もうおさうく結論が出てゐることと思ひます。この際原因について御説明願ひたい。

それから第二点としまゝて一五ページの会計管理費の中で印刷製本費二万三千円が補正されてゐるわけで

でございますけれども、一体何をどういう二点を製本之
にたうか。関係一まゝで製本等につきまゝで各課とま
でございすけれども、一体どういうシステムによつて各
課は製本、印刷というものをやつておられるか、その内容
についてお答え願いたい。以上です。

・消防長(星野清之助君)消防車の事故について処分
結果はどうなつたかというお尋ねでございますが、御
案内のとおり、まる七月二十七日夜あり事故が起き
ました。以来、敬警察当局において調査、捜査など
いたしております。その後事件を館山ウ区検に送致
いたしたわけでございすますが、結果が本月の八日に不起
訴処分という形で決定されました。

なお、それに伴ひまゝで身分関係につきまゝでは同じ
く、十一月十一日に任命権者でございす私において

懲戒処分といひまゝて戒告処分といひたわけでございます。従ひまして原因につきましては一応警察当局は不起訴処分といひたわけでございます。その内容についてはございせんが、一かゝやむを得なかつた形のもゝと推定されます。以上でございます。

・収入役（高木哲三君）会計管理費の印刷製本費でございますが、これは決算書の印刷代がかさみまゝた関係で、ほかう三月末までが見込みを追加したわけでございます。

・財政課長（長谷川広治君）印刷製本費の報執行の手続きと申しますか。内容でございますが、これは主管課におきまして予算と見合せて、その内印刷をやるか、外注にするかというふうなものをまず検討いたしまして、もちろん印刷する内容にもなりますが、その結果その内

印刷とか外注かに決定いたします。その結果に基きまして要求票を私どもの方で回わります。私どもの方で予算あるなし、或いは支出課目の誤謬、そういう書類検討をいたしまして、その後庶務課に参りまして、庶務の契約係にすり外注いたします。きものは、それぞれ入れ或いは随意契約等で注文する、という段階になつて参ります。庁内印刷と申しますと、庶務課でも印刷できるといふ場合に庶務課文書係の方に参りまして、そこで印刷し、所管課に配布する。そういう段階でございます。

ニ。番（中村省吾君）消防関係につきまして十二月八日に不起訴というにおつたんですが、その点はわかりました。それから行政処分を發した。その時点でなお、原因が發表できないということがおかしい。原因が

はつきりないでなぜ不起訴にもなる—何にしろ行政処分を—とか。当然そこにはわかる理由によつて三つ—二つと生じた—ということが明らかでないで、何をもつて行政処分—とかという—のです。まず、その点を伺いたい。

それから印刷。そう他でございしますが大体経過はわかりました。大体財政課とう関係性。そう他はわかりました。もう一点お聞きしておきたいのは、各課において収入役室に限った問題ではございせん、関連いたしませんけれども、外注する場合に起案を—して、それから編集にかかると。編集をどなたが点検—しないでいいという—ことによつて、発注するか、どういうシステムによつて点検—しているか。なおかつ、編集を—たものを当然校正点検を—していると思つたわけではございせん。

そういうことがだれがなされておるか。以上の点、お伺いいたします。

・消防長(星野青え助君) 答えいたします。十二月八日に不起訴になったわけでございますが、その原因をはっきり申せというお尋ねでございますけれども、これは検察官が判断いたしました。不起訴相当というところで処分したわけでございますので、その内容を私ども知るすべがございません。ただ、先ほどお答えいたしましたように、相当やむを得なかったような事情によるものではないかろうかという判断がでるわけでございます。

それから行政処分の件でございますが、これは中村議員御案内と思いますけれども、行政処分と刑事処分は独立して行なうことができます。一応不起訴処分になりましても、諸般の事情を勘案いたしまして

やはり微心戒に付するが相当と判断いたしまして、
上司とおはかりいたしまして私任命権者になっており
ますので、私り名前において微心戒処分した。三つう
次第でございます。

。財政課長（長谷川広治君）印刷製本費の過程と申しますか
これは私り方でもはつきりつかめませんが、事務の流しと
いたしましては原則として発注する課が責任を持ち
原稿編集、そういうものを行なう。その後外注或い
は市内印刷等に行なう。また、校正は主管課
で行ない、でき上がったものを受け入れるも主管課が責任
を持ち行なう。そういう流れになります。が、細
部に至りましては、それぞれ各課の状況があると思
いますが、一応原則を申し上げます。

。二番（中村省吾君）消防長に重ねてお尋ねいたしま

すが、原因がわからなくて、ぼくならぼくが何かしてやる。
何でそんなかわからない。それで一体、私をどうしようという
んです。原因も何もわからないで、行政処分をするか
らにはおまえは、これこれ、こういうことをしたのだという
ことが、やはり原因というものがなければならぬ。
結果だけ見て、結果は確かに事故を起している
そうすると、消防長おっしゃったように、おまえが得ないと
いう事情だ。おまえが得ないということはどういうこと
だ。言いかえれば当然だ。そういうことだけで行政処分
ということをしていいかどうか。

行政処分、そういうことが不当だということをおる
ではない。行政処分をするからには、確たる根拠
がなければならぬ。ことごとくおる。

にもかかわらず、私が再三、全員協議会から、前回の

議会を通じてこの今回、消防車、事故はさわ
 めて重大だ。この点には制度上、欠陥があり、何か
 考えなければならぬ点があるだろう。そう、このことから
 この原因を追及してもらいたい。早く報告してもらい
 たいということを要求してきた。ところが、その本人を行政
 処分してまでも原因がわからない。発表できない。
 このいうことはどうかと思う。私は行政処分をする前に
 このいう原因によって、このだ、このことを当然公表す
 べきだろうと思います。その点再度御答弁願いたい。
 それから印刷、外注関係でございしますけれども、大
 体そのシステムが流しはわかってきまいたが、主管課に
 おいて責任を持ててやっております。結構でございします。
 ところが、私、そこに一つ問題点があつて、実はその
 ことをお尋ねしたのでございしますが、市井において

私非常に不愉快なことを聞いてきた。それで実は三
う質問をいたわけです。

市は非常に冗費があるというのを市は何をや
いるのだろうか。あんなむだ使いをしてるというのを
言われた。私は何ですかというのを聞いてみると、
は一体文書とか。そういうものを印刷するについて
検討をしてるのかというのを言われた。それでそう
いうことを聞いたんですが、今、答弁によると編集
も責任を持って各課においてゐる。校正も主管理
においてゐる。三ういう答弁があつた。二に絶対間違
はないかどうか。その点もういっぺん編集を責任を持
て、校正も確実に実行してゐる。三ういうことに間違
はないかどうか。再度御答弁願ひます。

消防長(星野清之助君) お答えいたします。先ほど申し

上げまいにように検査察官にまるところが不起訴処分
 の決定につきまゝで内容はつまびらかではありません。
 先ほど申し上げたとおりであります。私どもが一応調
 査しただけです。一けいばお答えして結構
 ですが、それが果たして正鵠を得ているかどうかとい
 うことに私は疑問を持ちます。それでちやう
 ちなうておる次第でございます。それから行政処分で
 ございますが、これは先ほど申し上げまいにように刑
 事処分と独立して、この性質を考えた。いたいた
 わけでございます。法律的には地方公務員法、第二
 十七條の公務員としての義務に違反した。あいで
 いたまいた。

。二番(中村省吾君)そういう刑事処分ということではないで
 せいはわかつております。公務員法による行政処分

これもわかってあります。私がいうのは、今、ちつともらいます。一たように公務員としての何かにもとつた。そういうこともいつておる。果たしてもつていたか。どうかという事です。が、どういふ点がもつておるか。それがわからないうで、行政処分をすることが妥当かどうか。戒告処分一たことがいけないとはいってない。少なくとも行政処分をするならば、かかるが故にという納得する事項がなければならぬ。すべてが人が単に結果が消防車が突っ込んだ。それだけをつかまえて何が故に突っ込んだか。一番大きな問題点かそこにある。何が故に起すべからざることを起したか。そのことを追及するうが。消防長としての役目だ。従つて私は行政処分云々などいつておるわけではない。行政処分をするまでになつておりながら、いまだに原因が発表できない。そのことをいつて

おる。でありますから、この点がまだわからぬということならば、この以上あえて質問いたしません。が、次の議会まででも、こういうことによつて、今回消防車事故というものは起きたとか、起きたと思ふとか、或いはこの以外に考えられないという点でも結構です。何らかう結論を出していただくたい。そういうふうにお願ひいたします。

・財政課長（長谷川広治君）原則としては私が申し上げましたように課において原稿等の編集、草案の作成、そういうものを経まして、ただ一部におきましては、事務の専決事項による課長限りのもの、或いは助役、或いは市長決裁までのものがあります。が、そういう段階で注文——原稿の校正、そういうものを主管課で行ない、検収も行なうということが原則

でございます。ただ一部特別な場合があつたかもしれませんが、私どもで知る範囲では、財政を通して知る範囲では、それが原則になつております。

二。番(中村省吾君)答弁がわからない。ぼくがいつたうは、編集点校校正とか、そういうルールに完全に従つてやつておるか、どうか、各課とも、やつたかどうかということ、を聞いたんです。一部において云々口をいごさいた。

その点がおかしい。何かあるだろう。そうすると私が聞いたうわさが何かあるのではないかという疑問が出てくる。そういう奥歯にもうはさまった答弁でなくて、一般市民の疑惑を招くような外注はしてありません。そのうち、それで結構、ぶしゃつと答弁していただくたい。

助役(小出武男君)ただいま中村さん、質問に対して、財政課長から申し上げまいなんですが、原則として

は、そういうルートが私どもも、なされておるものと、確信しておるわけでございまして、二つも庶務課に印刷技術と申しますか、仕事を統一しまして、各課で今までなっておったのが全部そこで集約されてきたということになりますと、各課で簡単なものですよ、主簿課で校正するんですが、パンフレットの何枚か、うちのようになりますと、当然校正がいと存じます。

それは立案、発注課で校正する方が正しい校正ができるのでありまして、そういうケースでなされておるものと私は信じておるんですが、今財政課長が言います、私ことを私も同様に信じておるわけでございまして、疑問があるんですか、わかりませんが、システムは、そういうふうにしてあるはずでございまして。

二番(中村省吾君) 時間がないうで、よく申しませんが

はつきり私ゝ質問はわかつておると思います。

市民から市費をむだ使ひしておるということとを庫
いて、私自身変なことを言わねえで聞いてみた。

はつきり言わないけれども印刷製本、そういうものを
外注に關しておかしいことをしておるから、そういう
ことが出たということが私に聞え及んだ中では出て来
て私がいつた外注するにはどういうルールを踏んでや
つておるかというところで私に常識的な判断の中で
編集の責任、校正の責任というのはどういうふう
なっておるかということをお尋ねした。ところがそうい
うことまで完全に行なわれておるならば、市民から疑い
の目を持ちたくない。おそろくそういうことがなかったから
印刷に出したものをもう一回印刷させるという、おか
しい点が出てきたと思うんです。一体、その責任

はどこにあるか、私はそうことをいつてゐる。そういうこと
とがたいことを信じてゐるわけです。ですから、ない
のかといつてゐる。

・議長（吉田勇治郎君）暫時 休憩いたします。

午後 四時二十分 休憩

午後 四時三十三分 再開

・議長（吉田勇治郎君）休憩前に引き続き会議を開き
ます。

・助役（小出武男君）先ほどの中村議員の質問でござい
ますが、市としましては、先ほども申しましたように、
各課の責任で浪費です。ね。こういうものがないように
指導してゐるわけでございます。私ども原則論は

さうき申上げましたとありでございます。

・秘書課長(小倉登男君) 関連いたしましてお答えいたしますが、先ほどまで質問の内意がはつきりつかめませんで、私自身、気がつきませんで、おりまして、まことに申しわけないと思っておりますが、よく考えまして、一度編集上、総合的な編集上の考え方から、これはどうしても印刷をいたした方がいという責任におきまして、私の方で一度印刷をいたしたことがございまして、このことを御報告いたします。

・ニッ番(中村省吾君) おそらく私が聞いたこともさういふたさうなことであらうと思います。

さうなことも議員という身分を持っておき、さういふ私に対して、市民からさういふ指摘を受けるということとはきわめて私どもは遺憾といたなければならぬことではござい

ます。従つて私は今、ここであえて、そういうことを申し上げなければなりません。再三申しましたように、編集、校正、その他、ルールを完全を守っているか、ということ、御質問申し上げたわけでございます。今も秘書課長が申しましたように、編集上、誤り、少くとも、編集上、誤まりで印刷を、一かえるということ、二度とないよう、に嚴重に、この点は注意していただきたいと思います。

私も、そういうことは、絶対ないだろう、ということ、は、いつておきます。だが、今まで、いっぺんあった、という、ことでございます。で、そういう点は、私の、限いた範囲では、納得、う、い、く、やうな、話、は、して、おく、予、定、で、ござ、い、ま、す、が、とにかく、そういう、ルールを、確、立、て、ま、い、て、少、な、く、も、所、費、を、む、だ、使、い、う、な、い、ま、う、に、し、て、い、た、だ、き、な、い、こ、と、を、望、み

まして終ります。

・二番(石井輝久君)中村議員の関連でございますが、消防長さんに一点だけ伺いたいです。

ただいま御報告で事故の当事者の戒告処分をなさった。こういうお話でございます。ああいったかなり大きな事故でございます。私は、いつぞやもこれは担当が商工が担当課でございます。だいたい、商工観光さんに御答弁を願ったこともあったんですが、事故の発生した場合の責任者、責任の及ぶ範囲は、ある程度、事故で一体どの程度かということが一点とそれから、もう一つはそれに対する当事者に対する戒告処分をなさった以上はおそらくそう及ぶ責任の範囲に尽いて、何らかの御処置をなさったんではなかろうかと、私自身は推察するんですが、そう

二 食 日 司 調 査
ような処置をなさったかどうか。ごく簡単に御答弁
をお願いいたします。

・消防長(星野清之助君)も答えいたします。消防に関
しましては総合的には市長や、いろいろな予算など、関
係がございますが、私が責任者でございます。

従いまして、ただいまの御質問の關係につきましても、は
私自身、それらに、こまにいます。若田次長まで、事情に
まづては、及ぶものと、私は思います。

今回の事故につきましても、でございますけれども、そ
点についても、いろいろ私も、調査いたしまして、その
結果、いたしまして、端的に申しまして、当夜の事情
等から、かんがみまして、それは、全員協議会のときに
詳しく申し上げましたとおり、考えまして、若田署長
及び指揮者として、同乗して、おりました倉田司令補

でございますが、二つらに對しまして、懲戒処分という
ような処分にできることは、ちやうとできかねるような事情
でございます。一かーなだら、ことばらう性質・状況
等からいたしまして、一応伊東消防士をあのやうな
懲戒処分にいたしまして、なこともございますので、
若田署長及び倉田司令補に對しましては、懲戒処分
とは別でございますが、私、監督権に基きますところ、
訓戒処分という形で強く注意を促さる次第でござ
います。その他のもう、對しまして、特別いろいろ注意
等いたしまして、措置いたすやうな次第でございます。
・ニ番(石井輝久君)消防長さんのただいまの答弁ですと
及び範囲は、かなり上級者に及び、一かー、あの事故の
場合、署長さんともう一名訓戒の御処分をなさった
ということでございます。了承いたしまして。

議長(吉田勇治郎君)おはかりいたします。議案第六十六号乃至六十九号を討論省略原案通り可決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決確定さします。

こゝ際おはかりいたします。

日程第七請願書につづましては諸般の都合により本日9日程よりこれを削除したいと思ひます。

こゝに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。よって削除さします。

おはかりいたします。

以上をもちまして、本定例会に付議されました議事、
案件はすべて議了されました。よって本日をもち
て第四回市議会定例会を閉会いたします。ことに御
異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。
よって本定例会はこゝにて閉会と決まりました。

午後 四時四十三分 閉会

本日の会議に付いた事件

一、議事日程より請願書を削除

出席議員

吉田 勇治郎

石井 輝久

嶋田 石蔵

伊賀 多朗

藤田 益治

磯辺 博

白熊 盛大郎

黒川 正

三幣 勇

西村 真次

菊井 敏博

小柴 孝

山田 教宇

遠山 三子

石井 正

五十嵐 昇

江田 徳太郎

安西 益男

島野 茂樹郎

中村 省吾

関 武夫

小澤 恵太郎

飯田 義男

田中 禄郎

秋山 六三郎

安沢 徳順

望月 照正

鈴木 市蔵

山口 康

欠席議員

田村源治郎

昭和四十二年十一月二十日

右会議の次第を録し、ここに署名す

山口市議会議長

吉岡 勇 氏

同 署名議員

秋のさくら 氏

同

議 邊 博 氏

